

1

生命保険（個人年金保険を含む）の加入状況

（1）加入率（個人年金保険を含む）

（1）世帯加入率とは

本調査に対して回答したすべての世帯のうち、世帯員の少なくとも1人以上が生命保険に加入している世帯の割合を示している。例えば、世帯員のうち一人が生命保険に加入している世帯も二人が生命保険に加入している世帯も生命保険加入世帯1としてカウントすることになる。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{世帯加入率} = \frac{\text{世帯員の少なくとも一人以上が加入している世帯数}}{\text{全回答世帯数}} \times 100$$

また、全生保世帯加入率とは世帯員の1人以上が、民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等の4機関のうちいずれかに加入している世帯の割合を示している。（以下同様）したがって、民保に加入している世帯も民保と簡保両方に加入している世帯も生命保険加入世帯1としてカウントするので、前述の4機関のそれぞれの世帯加入率を合計しても全生保世帯加入率とはならない。

（2）世帯主の加入率とは

本調査に対して回答したすべての世帯のうち、世帯主が加入している割合を示している。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{世帯主の加入率} = \frac{\text{世帯主が加入している世帯数}}{\text{全回答世帯数}} \times 100$$

4機関の世帯主加入率を合計しても全生保世帯主加入率とならないのは、前述と同様である。

（3）配偶者の加入率とは

本調査に対して回答したすべての世帯のうち、配偶者のいる世帯における配偶者の生命保険に加入している割合を示している。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{配偶者の加入率} = \frac{\text{配偶者が加入している世帯数}}{\text{本調査に回答した世帯主で配偶者のいる世帯数}} \times 100$$

4機関の配偶者の加入率を合計しても全生保の配偶者の加入率とならないのは、前述と同様である。

(4) 子ども（未婚で就学前・就学中）の加入率とは

子ども（未婚で就学前・就学中）が生命保険に加入している割合のことで、次の式で算出している。

$$\text{子ども（未婚で就学前・就学中）の加入率} = \frac{\text{生命保険に加入している子ども（未婚で就学前・就学中）の総数}}{\text{本調査に回答した子ども（未婚で就学前・就学中）がいる世帯での子ども（未婚で就学前・就学中）の総数}} \times 100$$

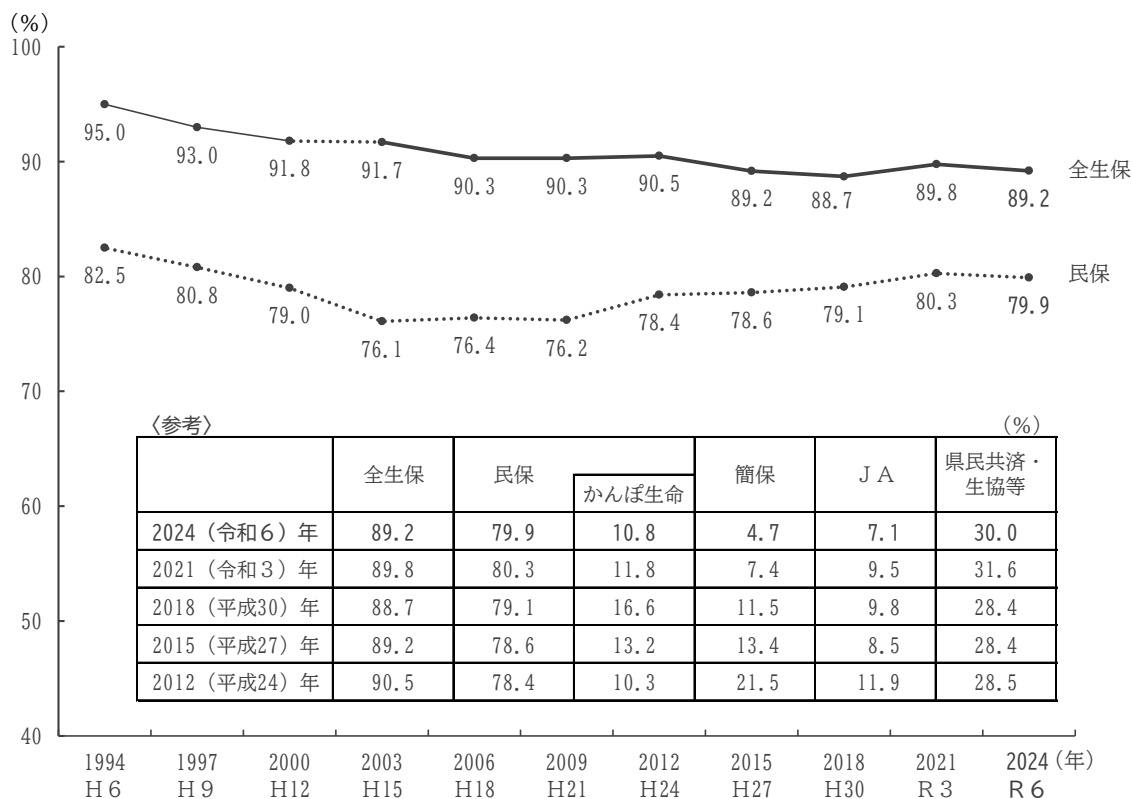
4機関の子ども（未婚で就学前・就学中）の加入率を合計しても全生保の子ども（未婚で就学前・就学中）の加入率とならないのは、前述と同様である。

(ア) 世帯加入率（個人年金保険を含む）

生命保険の世帯加入率は全生保で89.2%（前回89.8%）、民保で79.9%（前回80.3%）となっている。

前回と比較すると、大きな差異はみられなかった。（図表 I -1）

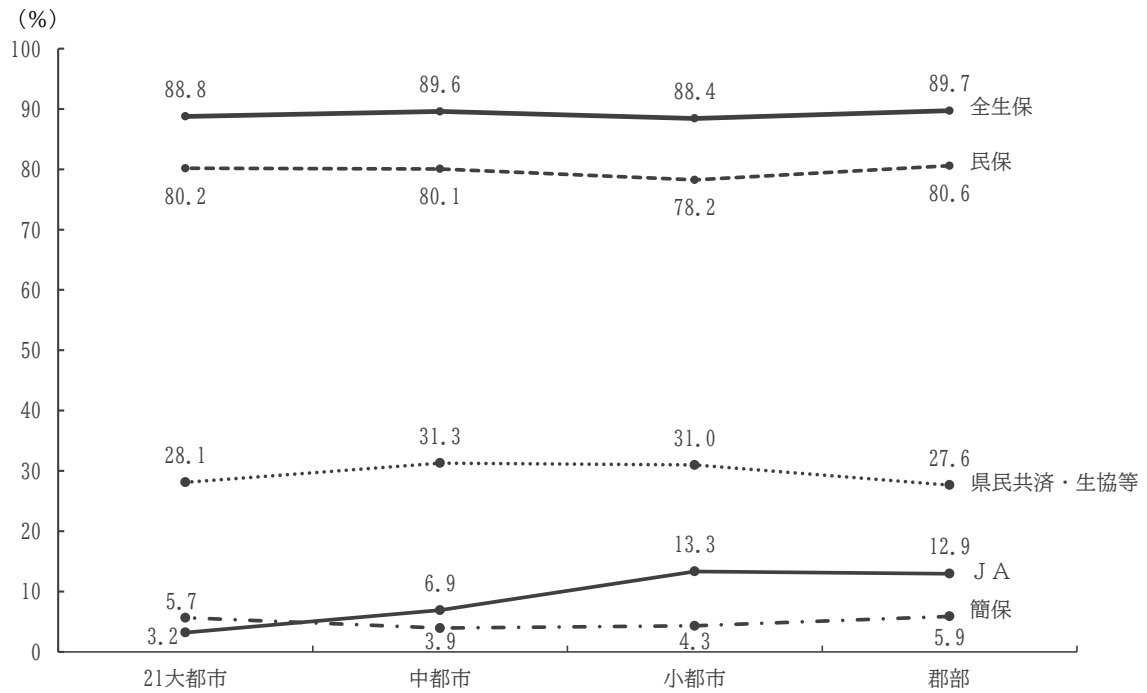
〈図表 I -1〉 世帯加入率の推移



*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む
 *全生保の2000（平成12）年以前は民保、簡保、JAの計

市郡規模別にみると、JAは「小都市」(13.3%)、「郡部」(12.9%)で高くなっている。(図表 I-2)

〈図表 I-2〉生命保険・個人年金保険の世帯加入率(市郡規模別)



*全生保は民保(かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

全生保の世帯加入率について**世帯主年齢別**にみると、「45～49歳」から「65～69歳」にかけて90%を超えている。

前回と比較すると、「30～34歳」で10.4ポイント、「40～44歳」で6.5ポイント、それぞれ減少している。(図表 I-3)

〈図表 I-3〉生命保険・個人年金保険の世帯加入率（全生保）（世帯主年齢別）

| | 2012 (平成24)年 | 2015 (平成27)年 | 2018 (平成30)年 | 2021 (令和3)年 | 2024 (令和6)年 |
|--------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|----------------|
| 全 体 | 90.5 | 89.2 | 88.7 | 89.8 | 89.2 |
| 29歳以下 | 76.6 | 77.5 | 79.2 | 70.2 | 69.5 |
| 30～34歳 | 89.2 | 86.7 | 86.7 | 90.7 | 80.3 |
| 35～39歳 | 93.4 | 93.3 | 88.7 | 89.4 | 88.3 |
| 40～44歳 | 92.2 | 91.4 | 92.4 | 93.2 | 86.8 |
| 45～49歳 | 95.1 | 95.2 | 93.3 | 94.0 | 92.7 |
| 50～54歳 | 95.4 | 92.8 | 93.5 | 93.0 | 93.4 |
| 55～59歳 | 96.3 | 96.1 | 94.1 | 94.8 | 94.0 |
| 60～64歳 | 91.9 | 91.2 | 92.1 | 92.4 | 91.4 |
| 65～69歳 | 92.3 | 91.2 | 89.5 | 93.8 | 95.2 |
| 70～74歳 | 87.0 | 89.0 | 88.4 | 88.2 | 89.7 |
| 75～79歳 | 84.8 | 79.9 | 82.3 | 85.0 | 89.0 |
| 80～84歳 | 67.8 | 71.1 | 76.9 | 80.2 | 77.6 |
| 85～89歳 | 64.3 | 68.4 | 69.5 | 67.5 | 63.3 |
| 90歳以上 | 55.6 | 52.2 | 71.4 | 52.2 | 62.5 |

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

*90歳以上はサンプルが30未満

民保の世帯加入率について世帯主年齢別にみると、「35～39歳」および「45～49歳」から「70～74歳」にかけて、80%を超えている。

時系列でみると、「75～79歳」で2012（平成24）年以降、一貫して増加している。

前回と比較すると、「30～34歳」で9.5ポイント減少している。（図表 I-4）

〈図表 I-4〉生命保険・個人年金保険の世帯加入率（民保）（世帯主年齢別）

(%)

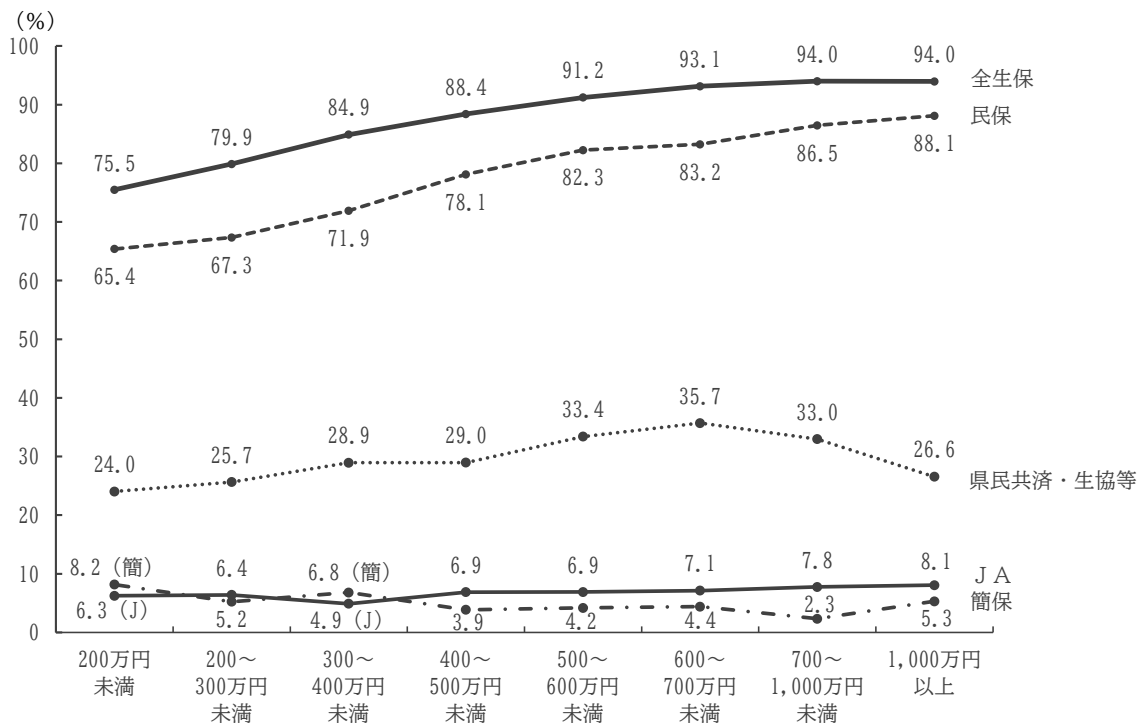
| | 2012 (平成24)年 | 2015 (平成27)年 | 2018 (平成30)年 | 2021 (令和3)年 | 2024 (令和6)年 |
|--------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|----------------|
| 全 体 | 78.4 | 78.6 | 79.1 | 80.3 | 79.9 |
| 29歳以下 | 57.1 | 63.8 | 72.2 | 65.4 | 62.9 |
| 30～34歳 | 74.0 | 79.8 | 81.4 | 80.5 | 71.0 |
| 35～39歳 | 81.7 | 82.7 | 80.0 | 81.1 | 82.1 |
| 40～44歳 | 81.3 | 81.2 | 84.5 | 81.6 | 78.0 |
| 45～49歳 | 85.5 | 86.2 | 86.0 | 87.0 | 84.8 |
| 50～54歳 | 86.3 | 84.7 | 85.1 | 84.6 | 82.6 |
| 55～59歳 | 85.3 | 85.3 | 83.9 | 84.7 | 84.1 |
| 60～64歳 | 79.4 | 79.2 | 81.4 | 84.6 | 83.3 |
| 65～69歳 | 79.3 | 76.8 | 76.4 | 84.1 | 81.5 |
| 70～74歳 | 76.3 | 78.9 | 80.6 | 77.6 | 80.1 |
| 75～79歳 | 68.9 | 70.7 | 72.5 | 73.4 | 78.8 |
| 80～84歳 | 52.6 | 62.1 | 64.5 | 69.1 | 67.7 |
| 85～89歳 | 47.6 | 57.9 | 58.1 | 55.4 | 59.2 |
| 90歳以上 | 44.4 | 43.5 | 57.1 | 52.2 | 62.5 |

*かんぽ生命を含む

*90歳以上はサンプルが30未満

世帯年収別にみると、全生保と民保ともに概ね世帯年収が高くなるほど加入率が高く、特に全生保は「600万円以上」の層、民保は「700万円以上」の層で高くなっている。また、県民共済・生協等は「600～700万円未満」の層で高くなっている。(図表 I-5)

〈図表 I-5〉生命保険・個人年金保険の世帯加入率（世帯年収別）



*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、J A、県民共済・生協等を含む

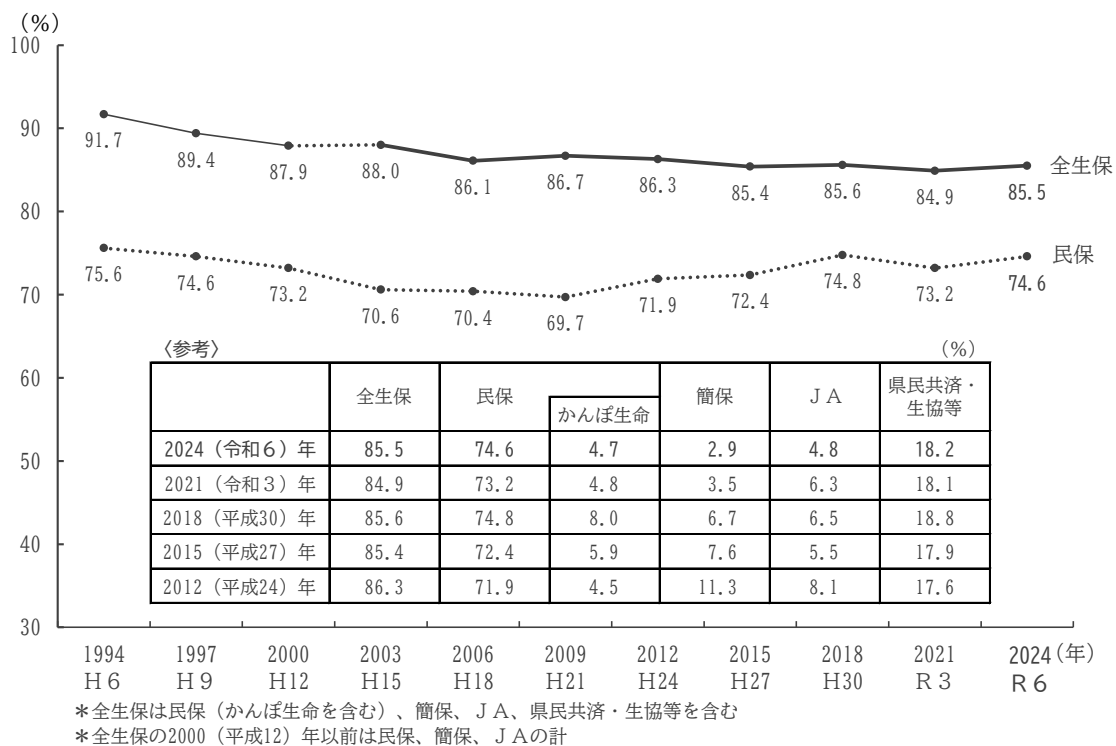
(イ)世帯員の加入率（個人年金保険を含む）

(a)世帯主の加入率（個人年金保険を含む）

世帯主の加入率は全生保で85.5%（前回84.9%）、民保で74.6%（前回73.2%）となっている。

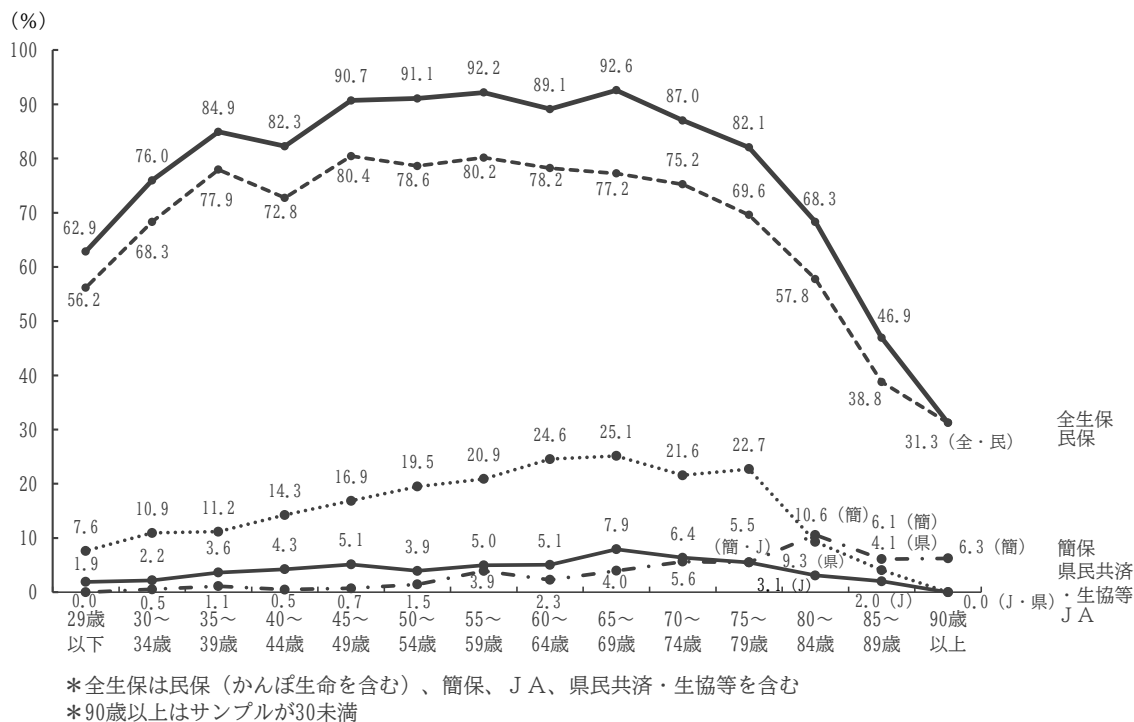
前回と比較すると、大きな差異はみられなかった。（図表 I -6）

〈図表 I -6〉世帯主の加入率の推移



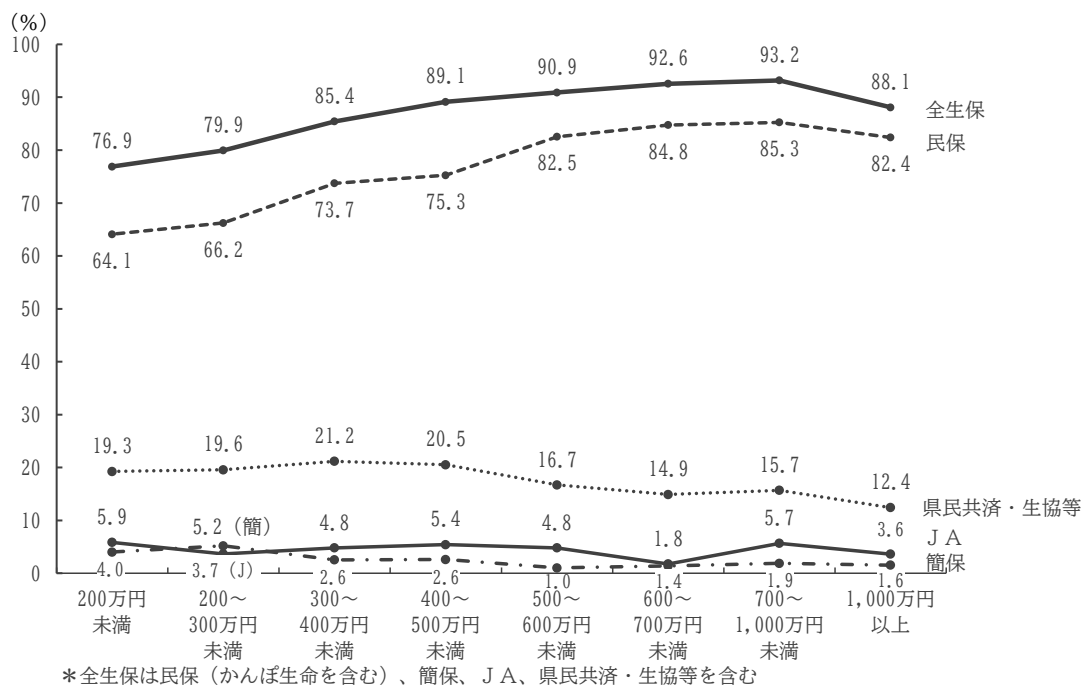
世帯主年齢別にみると、全生保は「45～49歳」から「55～59歳」および「65～69歳」で9割を超え高くなっている。民保は「45～49歳」および「55～59歳」で8割を超え高くなっている。県民共済・生協等は「60～64歳」(24.6%)、「65～69歳」(25.1%)、「75～79歳」(22.7%)で高くなっている。(図表 I-7)

〈図表 I-7〉 世帯主の加入率 (世帯主年齢別)



世帯主年収別にみると、全生保と民保ともに概ね世帯主年収が高くなるほど加入率が高く、特に全生保は「400～1000万円未満」の層、民保は「500万円以上」の層で、それぞれ高い割合となっている。県民共済・生協等は「300～400万円未満」(21.2%)で高くなっている。(図表 I-8)

〈図表 I-8〉 世帯主の加入率 (世帯主年収別)

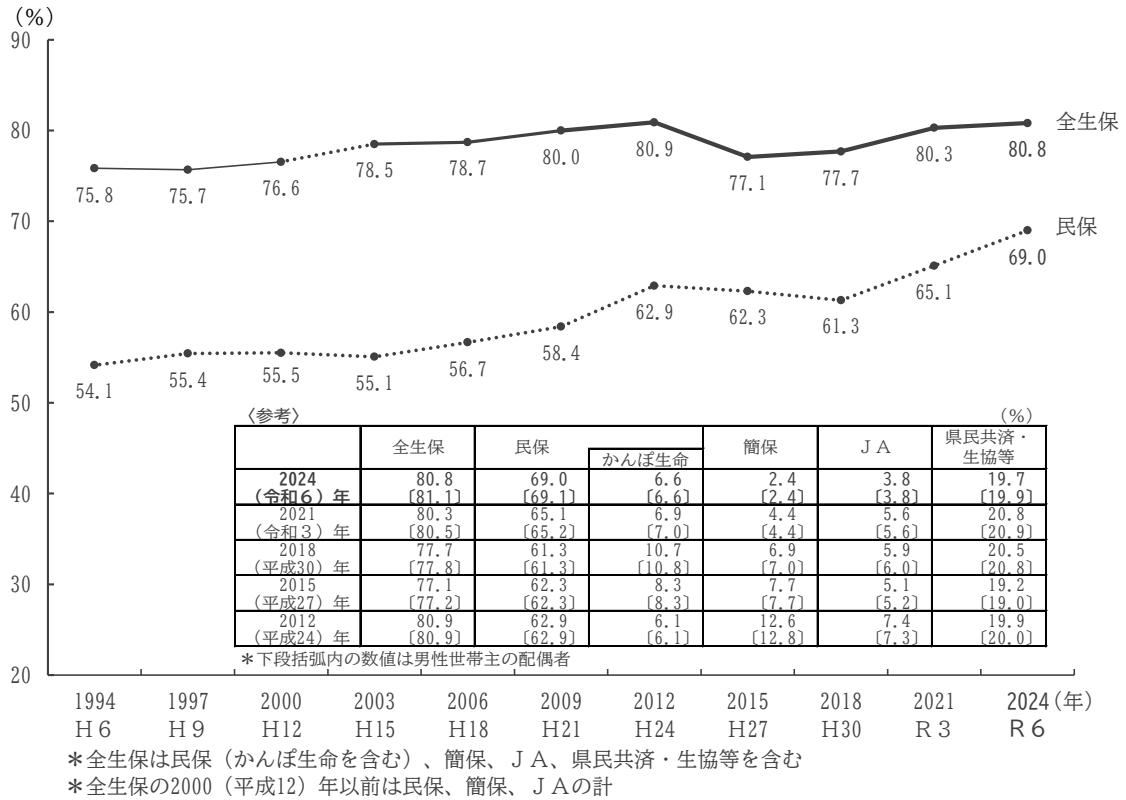


(b) 配偶者の加入率（個人年金保険を含む）

配偶者の加入率は全生保で80.8%（前回80.3%）、民保で69.0%（前回65.1%）となっている。

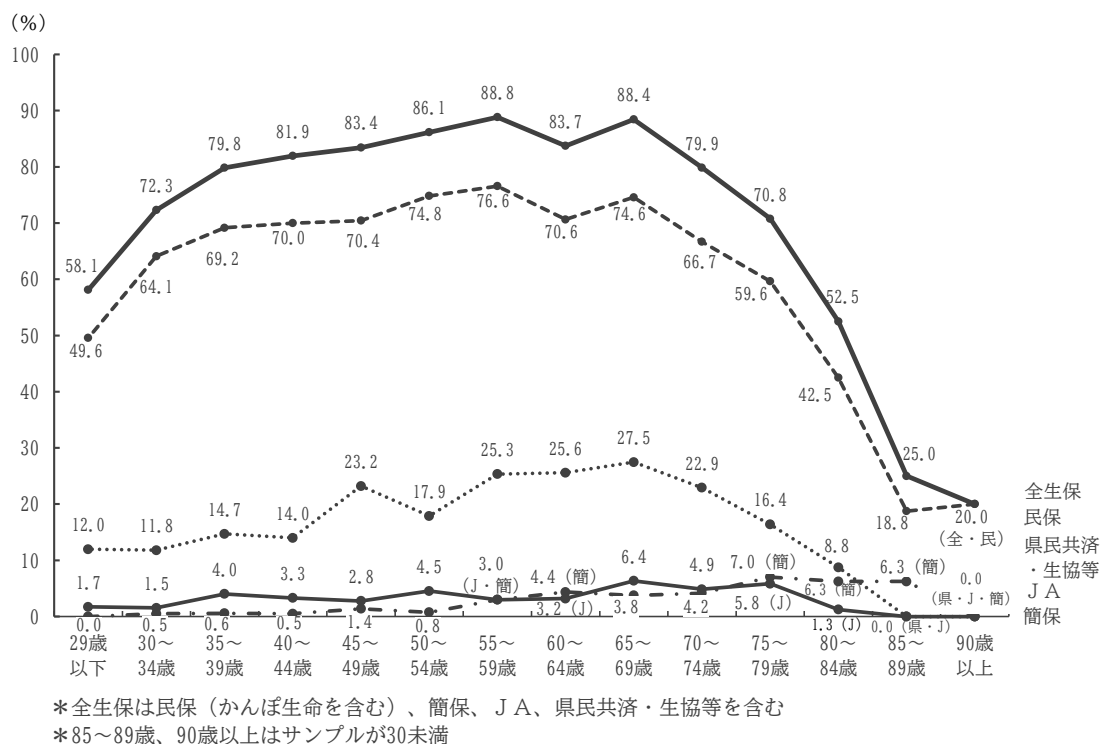
前回と比較すると、民保で3.9ポイント増加している。（図表 I-9）

〈図表 I-9〉 配偶者の加入率の推移



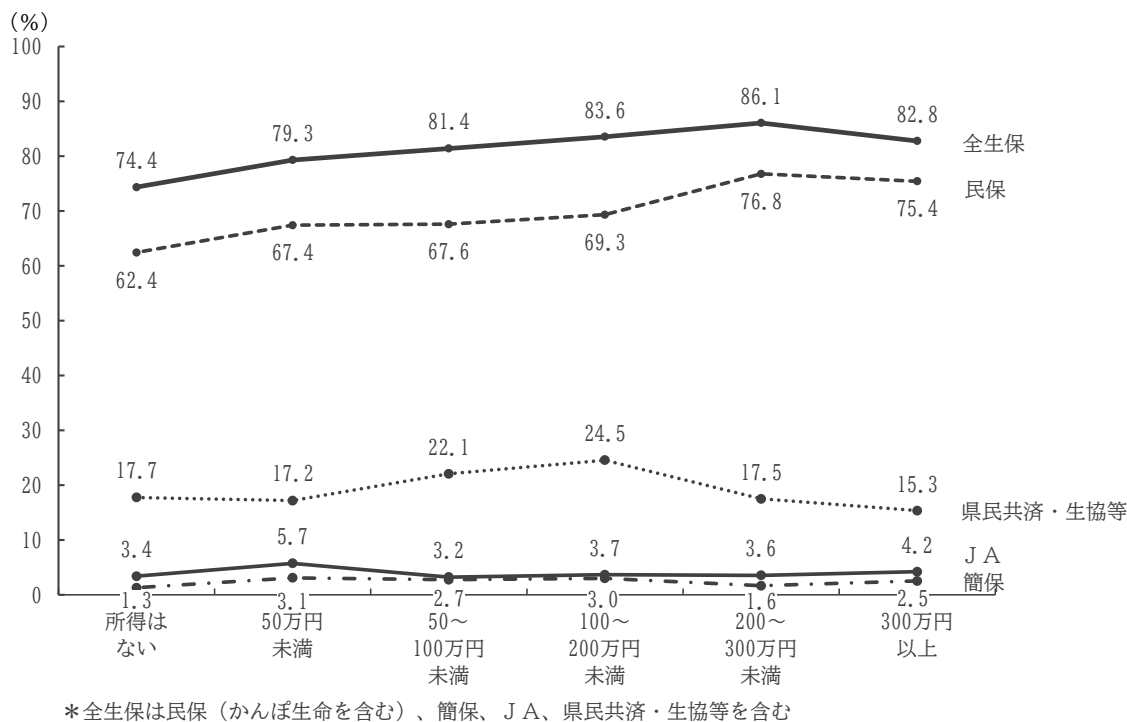
配偶者の年齢別にみると、全生保と民保ともに「50～54歳」、「55～59歳」および「65～69歳」で高くなっている。県民共済・生協等では「55～59歳」から「65～69歳」で高くなっている。(図表 I-10)

〈図表 I-10〉 配偶者の加入率 (配偶者の年齢別)



配偶者の年収別にみると、概ね年収が高くなるほど加入率が高く、全生保は「50万円以上」の層で8割を超えている。民保も同様の傾向がみられ、「200万円以上」の層では7割を超えている。(図表 I-11)

〈図表 I-11〉 配偶者の加入率 (配偶者の年収別)

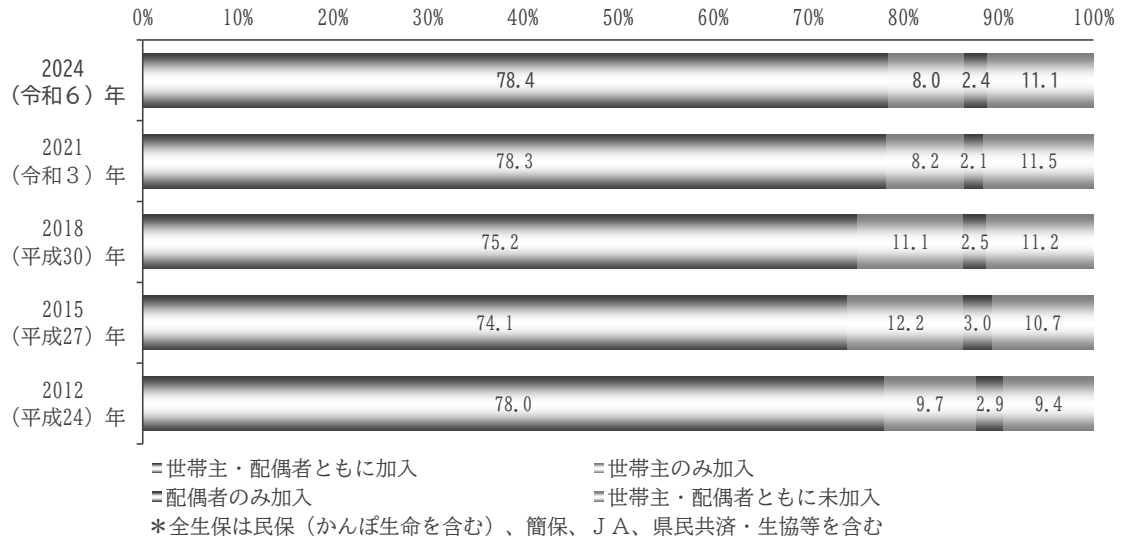


(c) 夫婦の生命保険（全生保）への加入形態（個人年金保険を含む）

配偶者がいる世帯における夫婦の加入形態をみると、「世帯主・配偶者ともに加入」は78.4%（前回78.3%）、「世帯主のみ加入」は8.0%（前回8.2%）となっている。

前回と比較すると、大きな差異はみられなかった。（図表 I -12）

〈図表 I -12〉 夫婦の生命保険（全生保）への加入形態



世帯主年齢別にみると、「世帯主・配偶者ともに加入」は「45～49歳」から「65～69歳」で8割を超えている。「世帯主・配偶者ともに未加入」は「29歳以下」(29.8%)、「80～84歳」(26.0%) および「85～89歳」(54.8%) の層で2割以上と高くなっている。(図表 I-13)

〈図表 I-13〉 夫婦の生命保険（全生保）への加入形態（世帯主年齢別）

| | (%) | | | |
|--------|------------------|-------------|-------------|-------------------|
| | 世帯主・配偶者 ともに加入 | 世帯主のみ 加入 | 配偶者のみ 加入 | 世帯主・配偶者 ともに未加入 |
| 全 体 | 78.4 | 8.0 | 2.4 | 11.1 |
| 29歳以下 | 52.4 | 14.3 | 3.6 | 29.8 |
| 30～34歳 | 72.3 | 5.7 | 3.1 | 18.9 |
| 35～39歳 | 75.5 | 9.7 | 2.7 | 12.1 |
| 40～44歳 | 76.8 | 6.1 | 3.1 | 14.0 |
| 45～49歳 | 81.6 | 9.8 | 1.4 | 7.3 |
| 50～54歳 | 83.7 | 8.3 | 1.3 | 6.8 |
| 55～59歳 | 86.2 | 7.1 | 1.2 | 5.5 |
| 60～64歳 | 82.3 | 9.0 | 1.8 | 6.9 |
| 65～69歳 | 87.2 | 6.4 | 1.5 | 4.9 |
| 70～74歳 | 79.7 | 7.6 | 1.8 | 10.9 |
| 75～79歳 | 76.0 | 5.6 | 5.2 | 13.3 |
| 80～84歳 | 53.4 | 12.2 | 8.4 | 26.0 |
| 85～89歳 | 38.7 | 6.5 | 0.0 | 54.8 |
| 90歳以上 | 30.8 | 7.7 | 0.0 | 61.5 |

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む
*90歳以上はサンプルが30未満

世帯年収別にみると、「世帯主・配偶者ともに加入」は概ね世帯年収が高くなるほど高く、「500万円以上」の層では8割を超えている。逆に「世帯主・配偶者ともに未加入」は、概ね世帯年収が低くなるほど高く、「200万円未満」(30.3%) では3割を超えている。(図表 I-14)

〈図表 I-14〉 夫婦の生命保険（全生保）への加入形態（世帯年収別）

| | (%) | | | |
|---------------|------------------|-------------|-------------|-------------------|
| | 世帯主・配偶者 ともに加入 | 世帯主のみ 加入 | 配偶者のみ 加入 | 世帯主・配偶者 ともに未加入 |
| 全 体 | 78.4 | 8.0 | 2.4 | 11.1 |
| 200万円未満 | 57.1 | 11.8 | 0.8 | 30.3 |
| 200～300万円未満 | 68.5 | 6.8 | 5.2 | 19.5 |
| 300～400万円未満 | 73.4 | 7.0 | 4.3 | 15.3 |
| 400～500万円未満 | 73.4 | 10.4 | 3.0 | 13.2 |
| 500～600万円未満 | 82.0 | 6.3 | 2.1 | 9.6 |
| 600～700万円未満 | 82.5 | 8.0 | 0.9 | 8.6 |
| 700～1,000万円未満 | 84.6 | 7.5 | 1.8 | 6.1 |
| 1,000万円以上 | 82.8 | 9.0 | 1.3 | 6.9 |

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

(d) 子ども（未婚で就学前・就学中）の加入率（個人年金保険を含む）

調査対象世帯の子ども（未婚で就学前・就学中）の総数に占める加入率（全生保）は45.9%（前回46.7%）となっている。

機関別にみると、民保20.4%（前回19.3%）、かんぼ生命4.0%（前回4.7%）、簡保0.7%（前回1.8%）、JA2.2%（前回2.9%）、県民共済・生協等18.7%（前回18.1%）となっている。（図表I-15）

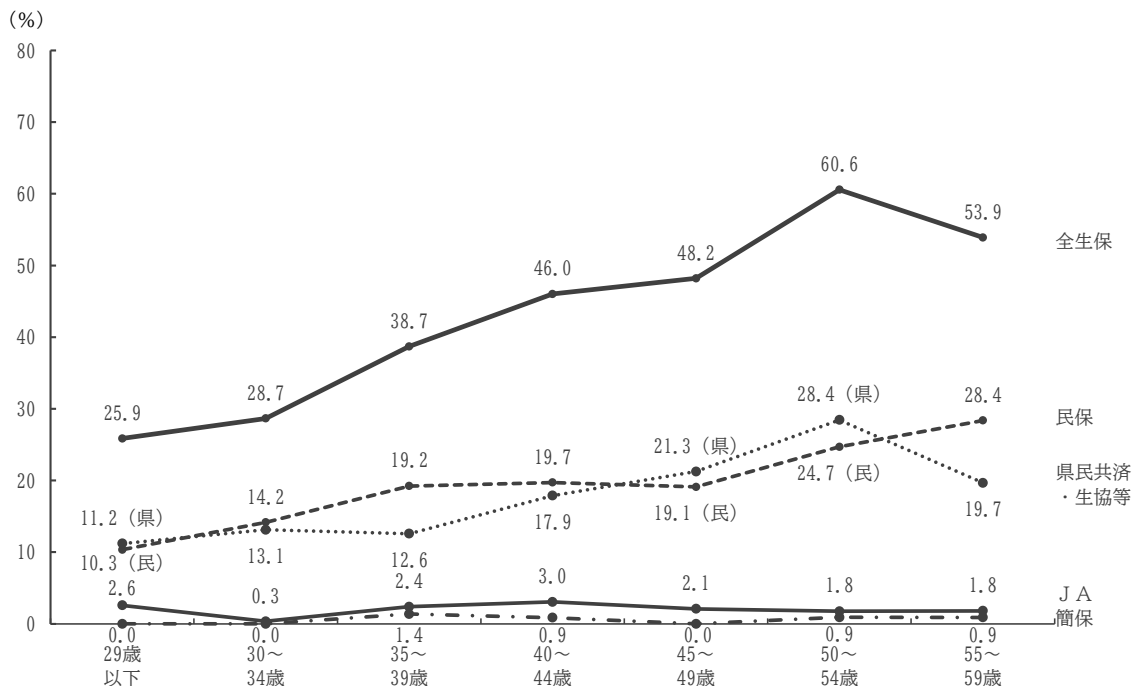
〈図表I-15〉子ども（未婚で就学前・就学中）の加入率

| | （%） | | | | | |
|-----------------|------|------|-------|-----|-----|----------|
| | 全生保 | 民保 | かんぼ生命 | 簡保 | J A | 県民共済・生協等 |
| 2024 （令和6）年 | 45.9 | 20.4 | 4.0 | 0.7 | 2.2 | 18.7 |
| 2021 （令和3）年 | 46.7 | 19.3 | 4.7 | 1.8 | 2.9 | 18.1 |
| 2018 （平成30）年 | 51.1 | 18.5 | 5.5 | 3.1 | 2.6 | 18.7 |
| 2015 （平成27）年 | 52.9 | 22.2 | 5.9 | 4.9 | 2.6 | 19.7 |
| 2012 （平成24）年 | 54.8 | 22.1 | 4.5 | 9.0 | 3.5 | 19.4 |

*全生保は民保（かんぼ生命を除く）、かんぼ生命、簡保、J A、県民共済・生協等を含む

世帯主年齢別にみると、全生保は「50～54歳」（60.6%）、民保は「55～59歳」（28.4%）で最も高くなっている。（図表I-16）

〈図表I-16〉子ども（未婚で就学前・就学中）の加入率（世帯主年齢別）



*全生保は民保（かんぼ生命を除く）、かんぼ生命、簡保、J A、県民共済・生協等を含む

*「60～64歳」から「90歳以上」はサンプル数が少ないため削除

(2) 加入件数（個人年金保険を含む）

(1) 世帯加入件数とは

生命保険に加入している世帯で平均何件の生命保険に加入しているかということを示している。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{世帯加入件数} = \frac{\text{全世帯員の総加入件数}}{\text{生命保険に加入している世帯数}}$$

なお、家族特約や連生保険（年金）などのように1つの保険で複数の人が保障されている場合は、1件としてカウントしている。

(2) 世帯主の加入件数とは

世帯主が生命保険に加入している世帯で、世帯主が平均何件の生命保険に加入しているかということを示している。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{世帯主の加入件数} = \frac{\text{世帯主の総加入件数}}{\text{世帯主が生命保険に加入している世帯数}}$$

なお、家族特約などで複数の世帯員が保障されている場合は、世帯主が主たる被保険者（加入者）の場合のみを件数にカウントしている。

(3) 配偶者の加入件数とは

配偶者が生命保険に加入している世帯で、配偶者が平均何件の生命保険に加入しているかということを示している。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{配偶者の加入件数} = \frac{\text{配偶者の総加入件数}}{\text{配偶者が生命保険に加入している世帯数}}$$

なお、家族特約などで複数の世帯員が保障されている場合は、配偶者が主たる被保険者（加入者）の場合のみを件数にカウントしている。

(4) 子ども（未婚で就学前・就学中）の加入件数とは

生命保険に加入している子ども（未婚で就学前・就学中）が平均何件の生命保険に加入しているかということを示している。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{子ども（未婚で就学前・就学中）の加入件数} = \frac{\text{子ども（未婚で就学前・就学中）の総加入件数}}{\text{生命保険に加入している子ども（未婚で就学前・就学中）の総数}}$$

なお、家族特約などで複数の世帯員が保障されている場合は、子ども（未婚で就学前・就学中）が主たる被保険者（加入者）の場合のみを件数にカウントしている。

(ア) 世帯加入件数（個人年金保険を含む）

生命保険加入世帯の平均加入件数（全生保）は3.8件（前回3.9件）となっている。
 機関別にみると、民保3.2件（前回3.2件）、簡保1.8件（前回1.9件）、JA2.2件（前回2.1件）、県民共済・生協等2.2件（前回2.1件）となっている。
 前回と比較すると、県民共済・生協等で0.1ポイント増加している。（図表I-17）

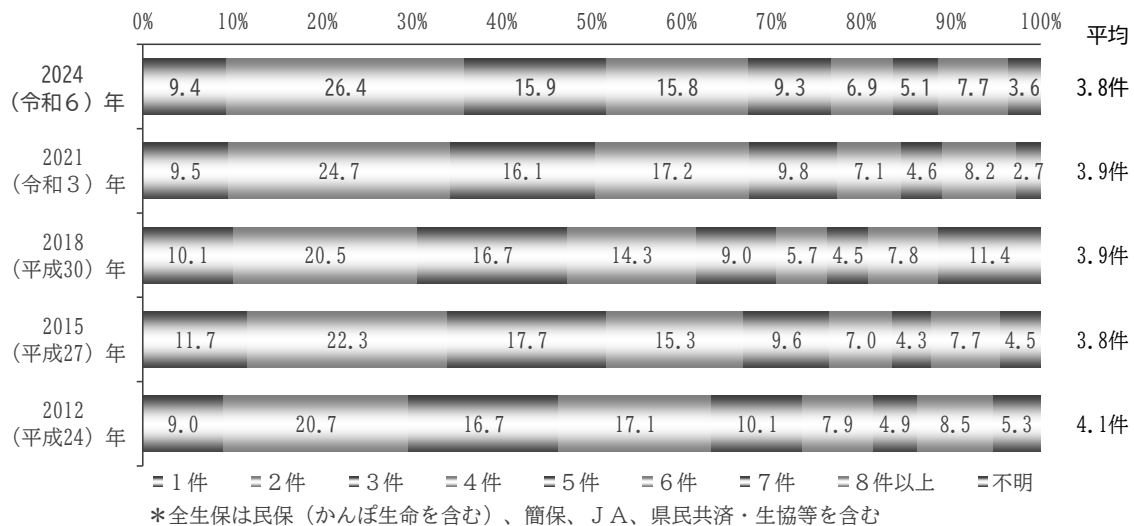
〈図表I-17〉世帯加入件数

| | 全生保 | 民保 | | 簡保 | JA | 県民共済・ 生協等 |
|-----------------|------------|------------|------------|------------|------------|--------------|
| | | | かんぽ生命 | | | |
| 2024 (令和6)年 | 3.8 (▲0.1) | 3.2 (0.0) | 1.8 (▲0.1) | 1.8 (▲0.1) | 2.2 (+0.1) | 2.2 (+0.1) |
| 2021 (令和3)年 | 3.9 (0.0) | 3.2 (0.0) | 1.9 (+0.1) | 1.9 (+0.1) | 2.1 (0.0) | 2.1 (0.0) |
| 2018 (平成30)年 | 3.9 (+0.1) | 3.2 (+0.1) | 1.8 (▲0.1) | 1.8 (0.0) | 2.1 (+0.1) | 2.1 (▲0.1) |
| 2015 (平成27)年 | 3.8 (▲0.3) | 3.1 (0.0) | 1.9 (+0.2) | 1.8 (▲0.1) | 2.0 (▲0.3) | 2.2 (0.0) |
| 2012 (平成24)年 | 4.1 (▲0.1) | 3.1 (+0.2) | 1.7 (0.0) | 1.9 (▲0.3) | 2.3 (0.0) | 2.2 (0.0) |

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む
 *（ ）は前回調査との差

世帯加入件数（全生保）の分布をみると、「2件」が26.4%と最も多く、次いで「3件」15.9%、「4件」15.8%となっている。（図表I-18）

〈図表I-18〉世帯加入件数（全生保）



市郡規模別にみると、全生保、民保は「郡部」で最も多く、それぞれ4.0件、3.4件、JAは「小都市」で最も多く2.5件となっている。(図表I-19)

〈図表I-19〉世帯加入件数（市郡規模別）

| | (件) | | | | |
|-------|-----|-----|-------|-----|----------|
| | 全生保 | 民保 | 簡保 | J A | 県民共済・生協等 |
| 全 体 | 3.8 | 3.2 | 1.8 | 2.2 | 2.2 |
| 21大都市 | 3.8 | 3.3 | 1.6 | 1.9 | 2.3 |
| 中 都 市 | 3.8 | 3.2 | 1.9 | 2.0 | 2.2 |
| 小 都 市 | 3.9 | 3.1 | (1.9) | 2.5 | 2.1 |
| 郡 部 | 4.0 | 3.4 | (1.8) | 2.3 | 2.0 |

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、J A、県民共済・生協等を含む
*サンプルが30未満のものについては（ ）で表示

世帯主年齢別にみると、全生保は「35～39歳」から「55～59歳」および「65～69歳」で4件以上となっている。(図表I-20)

〈図表I-20〉世帯加入件数（世帯主年齢別）

| | (件) | | | | |
|--------|-------|-------|-------|-------|----------|
| | 全生保 | 民保 | 簡保 | J A | 県民共済・生協等 |
| 全 体 | 3.8 | 3.2 | 1.8 | 2.2 | 2.2 |
| 29歳以下 | 2.5 | 2.3 | (0.0) | (1.5) | (2.3) |
| 30～34歳 | 3.6 | 3.3 | (1.0) | (1.3) | 2.2 |
| 35～39歳 | 4.1 | 3.4 | (2.9) | (2.4) | 2.5 |
| 40～44歳 | 4.1 | 3.5 | (1.8) | (2.6) | 2.7 |
| 45～49歳 | 4.2 | 3.5 | (1.6) | 1.8 | 2.5 |
| 50～54歳 | 4.1 | 3.4 | (1.2) | (2.6) | 2.5 |
| 55～59歳 | 4.0 | 3.4 | (2.0) | (2.7) | 2.2 |
| 60～64歳 | 3.9 | 3.2 | (2.0) | (2.0) | 1.8 |
| 65～69歳 | 4.0 | 3.4 | (1.8) | 2.2 | 2.1 |
| 70～74歳 | 3.4 | 2.8 | (1.6) | 1.9 | 1.9 |
| 75～79歳 | 3.3 | 2.8 | (1.7) | (2.0) | 1.9 |
| 80～84歳 | 2.8 | 2.4 | (1.6) | (1.4) | (1.6) |
| 85～89歳 | 2.8 | (2.3) | (2.3) | (2.0) | (2.1) |
| 90歳以上 | (2.9) | (2.9) | (1.0) | (0.0) | (1.0) |

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、J A、県民共済・生協等を含む
*サンプルが30未満のものについては（ ）で表示

世帯年収別にみると、全生保、民保ともに世帯年収が高くなるほど加入件数が多く、世帯年収「1,000万円以上」では全生保が4.6件、民保が4.0件となっている。(図表I-21)

〈図表I-21〉世帯加入件数(世帯年収別)

| | (件) | | | | |
|--------------|-----|-----|-------|-------|----------|
| | 全生保 | 民保 | 簡保 | J A | 県民共済・生協等 |
| 全 体 | 3.8 | 3.2 | 1.8 | 2.2 | 2.2 |
| 200万円未満 | 2.8 | 2.3 | (1.5) | (1.4) | 1.9 |
| 200～300万円未満 | 2.9 | 2.6 | (1.5) | (1.8) | 1.7 |
| 300～400万円未満 | 3.3 | 3.0 | 1.8 | (2.0) | 1.8 |
| 400～500万円未満 | 3.5 | 3.0 | (1.6) | 2.4 | 2.1 |
| 500～600万円未満 | 3.9 | 3.1 | (2.1) | 2.5 | 2.3 |
| 600～700万円未満 | 3.9 | 3.1 | (1.8) | (2.3) | 2.4 |
| 700～1000万円未満 | 4.3 | 3.6 | (2.2) | 1.9 | 2.4 |
| 1,000万円以上 | 4.6 | 4.0 | (1.6) | 2.3 | 2.4 |

*全生保は民保(かんぽ生命を含む)、簡保、J A、県民共済・生協等を含む
*サンプルが30未満のものについては()で表示

(イ)世帯員の加入件数(個人年金保険を含む)

(a)世帯主の加入件数(個人年金保険を含む)

生命保険に加入している世帯主の平均加入件数(全生保)は、1.7件(前回1.8件)となっている。

機関別にみると、民保1.6件(前回1.7件)、簡保1.1件(前回1.4件)、JA1.3件(前回1.3件)、県民共済・生協等1.1件(前回1.1件)となっている。前回と比較すると、全生保、簡保で減少している。(図表I-22)

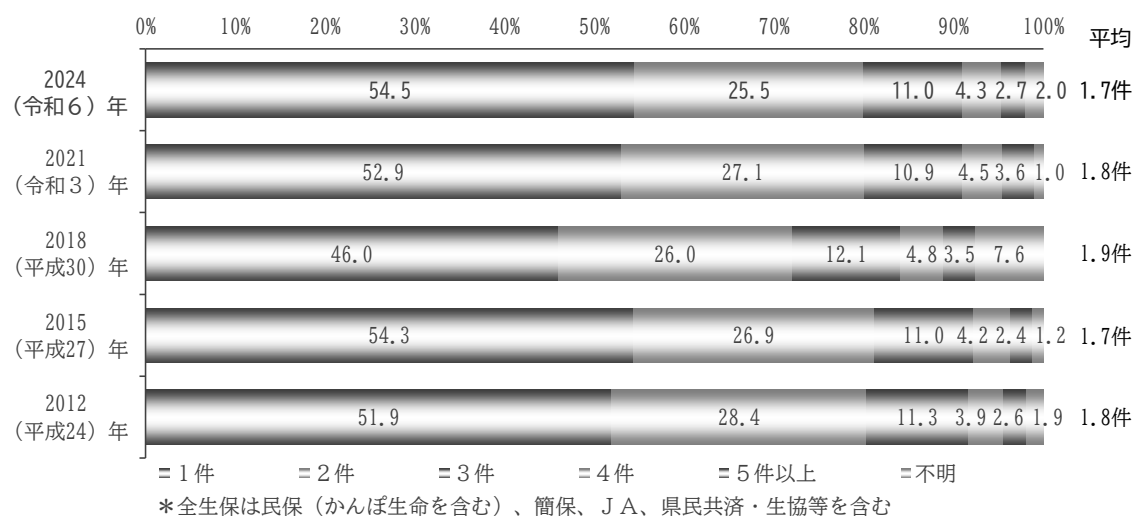
〈図表I-22〉世帯主の加入件数

| | (件) | | | | | |
|-------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | 全生保 | 民保 | かんぽ生命 | 簡保 | J A | 県民共済・生協等 |
| 2024(令和6)年 | 1.7 (▲0.1) | 1.6 (▲0.1) | 1.2 (+0.1) | 1.1 (▲0.3) | 1.3 (0.0) | 1.1 (0.0) |
| 2021(令和3)年 | 1.8 (▲0.1) | 1.7 (0.0) | 1.1 (▲0.1) | 1.4 (+0.2) | 1.3 (0.0) | 1.1 (0.0) |
| 2018(平成30)年 | 1.9 (+0.2) | 1.7 (+0.1) | 1.2 (0.0) | 1.2 (0.0) | 1.3 (+0.1) | 1.1 (▲0.1) |
| 2015(平成27)年 | 1.7 (▲0.1) | 1.6 (+0.1) | 1.2 (0.0) | 1.2 (0.0) | 1.2 (▲0.1) | 1.2 (0.0) |
| 2012(平成24)年 | 1.8 (0.0) | 1.5 (0.0) | 1.2 (0.0) | 1.2 (▲0.1) | 1.3 (0.0) | 1.2 (0.0) |

*全生保は民保(かんぽ生命を含む)、簡保、J A、県民共済・生協等を含む
*()は前回調査との差

世帯主の加入件数（全生保）の分布をみると、「1件」が54.5%と最も多く、「2件」（25.5%）が続いている。（図表 I-23）

〈図表 I-23〉世帯主の加入件数（全生保）



世帯主年齢別にみると、全生保は「65～69歳」で1.9件と最も多くなっている。（図表 I-24）

〈図表 I-24〉世帯主の加入件数（世帯主年齢別）

| | (件) | | | | |
|--------|-------|-------|-------|-------|----------|
| | 全生保 | 民保 | 簡保 | JA | 県民共済・生協等 |
| 全 体 | 1.7 | 1.6 | 1.1 | 1.3 | 1.1 |
| 29歳以下 | 1.3 | 1.3 | (0.0) | (1.0) | (1.0) |
| 30～34歳 | 1.6 | 1.6 | (1.0) | (1.0) | (1.1) |
| 35～39歳 | 1.7 | 1.6 | (1.3) | (1.5) | 1.2 |
| 40～44歳 | 1.7 | 1.7 | (1.0) | (1.2) | 1.1 |
| 45～49歳 | 1.8 | 1.7 | (1.3) | (1.2) | 1.1 |
| 50～54歳 | 1.8 | 1.7 | (1.0) | (1.3) | 1.2 |
| 55～59歳 | 1.8 | 1.6 | (1.3) | (1.7) | 1.1 |
| 60～64歳 | 1.8 | 1.7 | (1.2) | (1.2) | 1.1 |
| 65～69歳 | 1.9 | 1.7 | (1.1) | 1.4 | 1.2 |
| 70～74歳 | 1.7 | 1.5 | (1.1) | (1.3) | 1.1 |
| 75～79歳 | 1.7 | 1.5 | (1.1) | (1.1) | 1.1 |
| 80～84歳 | 1.5 | 1.4 | (1.1) | (1.3) | (1.0) |
| 85～89歳 | (1.5) | (1.4) | (1.3) | (1.0) | (2.5) |
| 90歳以上 | (1.4) | (1.2) | (1.0) | (0.0) | (0.0) |

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む
 *サンプルが30未満のものについては（ ）で表示

(b) 配偶者の加入件数（個人年金保険を含む）

生命保険に加入している配偶者の平均加入件数（全生保）は、1.6件（前回1.6件）となっている。

機関別にみると、民保1.5件（前回1.5件）、簡保1.3件（前回1.3件）、JA1.4件（前回1.2件）、県民共済・生協等1.1件（前回1.1件）となっている。

前回と比較すると、JAで0.2ポイント増加している。（図表I-25）

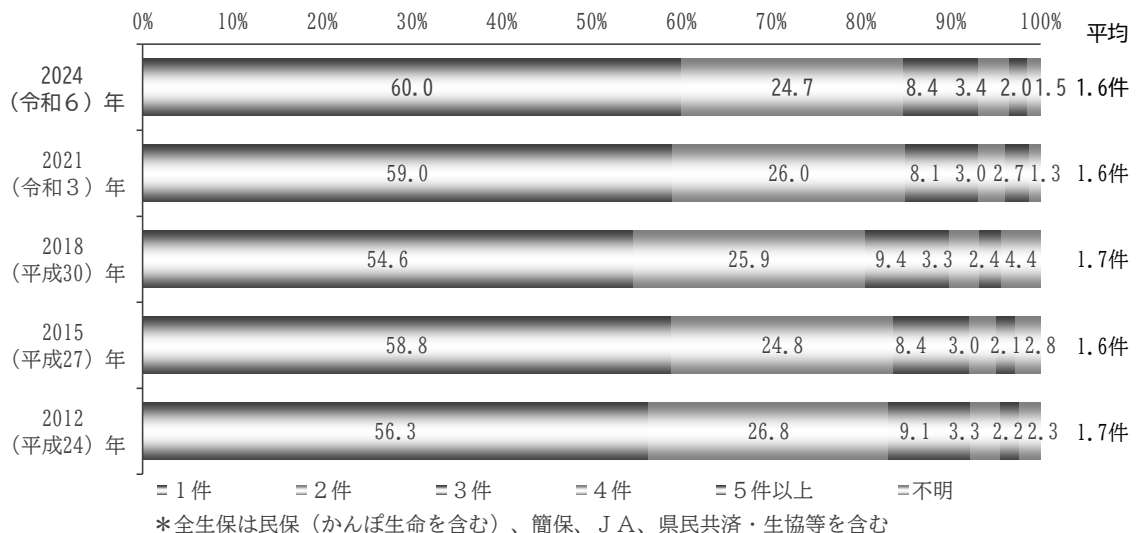
〈図表I-25〉 配偶者の加入件数

| | (件) | | | | | |
|-----------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| | 全生保 | 民保 | かんぽ生命 | 簡保 | J A | 県民共済・生協等 |
| 2024 (令和6)年 | 1.6 (0.0) [1.6 (0.0)] | 1.5 (0.0) [1.5 (0.0)] | 1.2 (0.0) [1.2 (0.0)] | 1.3 (0.0) [1.3 (0.0)] | 1.4 (+0.2) [1.4 (+0.2)] | 1.1 (0.0) [1.1 (0.0)] |
| 2021 (令和3)年 | 1.6 (▲0.1) [1.6 (▲0.1)] | 1.5 (0.0) [1.5 (0.0)] | 1.2 (▲0.1) [1.2 (▲0.1)] | 1.3 (0.0) [1.3 (+0.1)] | 1.2 (0.0) [1.2 (0.0)] | 1.1 (0.0) [1.1 (0.0)] |
| 2018 (平成30)年 | 1.7 (+0.1) [1.7 (+0.1)] | 1.5 (+0.1) [1.5 (+0.1)] | 1.3 (+0.1) [1.3 (+0.1)] | 1.3 (+0.1) [1.2 (0.0)] | 1.2 (0.0) [1.2 (0.0)] | 1.1 (0.0) [1.1 (0.0)] |
| 2015 (平成27)年 | 1.6 (▲0.1) [1.6 (▲0.1)] | 1.4 (0.0) [1.4 (0.0)] | 1.2 (+0.1) [1.2 (+0.1)] | 1.2 (▲0.1) [1.2 (▲0.1)] | 1.2 (0.0) [1.2 (0.0)] | 1.1 (▲0.1) [1.1 (0.0)] |
| 2012 (平成24)年 | 1.7 (0.0) [1.7 (0.0)] | 1.4 (0.0) [1.4 (+0.1)] | 1.1 (0.0) [1.1 (0.0)] | 1.3 (▲0.1) [1.3 (▲0.1)] | 1.2 (0.0) [1.2 (0.0)] | 1.2 (+0.1) [1.1 (0.0)] |

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、J A、県民共済・生協等を含む
 *（ ）は前回調査との差
 *下段は男性世帯主の配偶者

配偶者の加入件数（全生保）の分布をみると、「1件」が60.0%と半数を超えて最も多くなっている。（図表I-26）

〈図表I-26〉 配偶者の加入件数（全生保）



配偶者の年齢別にみると、全生保は「55～59歳」および「65～69歳」でいずれも1.8件と最も多くなっている。(図表 I-27)

〈図表 I-27〉 配偶者の加入件数（配偶者の年齢別）

| | (件) | | | | |
|--------|-------|-------|-------|-------|----------|
| | 全生保 | 民保 | 簡保 | J A | 県民共済・生協等 |
| 全 体 | 1.6 | 1.5 | 1.3 | 1.4 | 1.1 |
| 29歳以下 | 1.3 | 1.2 | (0.0) | (1.0) | (1.1) |
| 30～34歳 | 1.5 | 1.4 | (1.0) | (2.7) | (1.0) |
| 35～39歳 | 1.6 | 1.5 | (1.0) | (1.4) | 1.1 |
| 40～44歳 | 1.5 | 1.4 | (1.0) | (1.8) | 1.1 |
| 45～49歳 | 1.6 | 1.5 | (1.0) | (1.3) | 1.1 |
| 50～54歳 | 1.6 | 1.5 | (2.0) | (1.2) | 1.1 |
| 55～59歳 | 1.8 | 1.6 | (1.3) | (1.6) | 1.1 |
| 60～64歳 | 1.7 | 1.5 | (1.4) | (1.4) | 1.1 |
| 65～69歳 | 1.8 | 1.5 | (1.2) | (1.5) | 1.1 |
| 70～74歳 | 1.6 | 1.4 | (1.0) | (1.1) | 1.1 |
| 75～79歳 | 1.6 | 1.4 | (1.3) | (1.2) | (1.1) |
| 80～84歳 | 1.5 | 1.3 | (1.4) | (1.0) | (1.4) |
| 85～89歳 | (1.0) | (1.0) | (1.0) | (0.0) | (0.0) |
| 90歳以上 | (1.0) | (1.0) | (0.0) | (0.0) | (0.0) |

*全生保は民保（かんぼ生命を含む）、簡保、J A、県民共済・生協等を含む
*サンプルが30未満のものについては（ ）で表示

(c) 子ども（未婚で就学前・就学中）の加入件数（個人年金保険を含む）

生命保険に加入している子ども（未婚で就学前・就学中）の平均加入件数（全生保）は、1.2件（前回1.2件）となっている。

機関別にみると、民保1.1件（前回1.1件）、かんぼ生命1.0件（前回1.1件）、簡保1.0件（前回1.1件）、JA1.1件（前回1.1件）、県民共済・生協等1.0件（前回1.0件）となっている。(図表 I-28)

〈図表 I-28〉 子ども（未婚で就学前・就学中）の加入件数

| | (件) | | | | | |
|-----------------|------------|-----------|------------|------------|------------|-----------|
| | 全生保 | 民保 | かんぼ生命 | 簡保 | J A | 県民共済・生協等 |
| 2024 (令和6)年 | 1.2 (0.0) | 1.1 (0.0) | 1.0 (▲0.1) | 1.0 (▲0.1) | 1.1 (0.0) | 1.0 (0.0) |
| 2021 (令和3)年 | 1.2 (0.0) | 1.1 (0.0) | 1.1 (0.0) | 1.1 (0.0) | 1.1 (0.0) | 1.0 (0.0) |
| 2018 (平成30)年 | 1.2 (0.0) | 1.1 (0.0) | 1.1 (0.0) | 1.1 (+0.1) | 1.1 (+0.1) | 1.0 (0.0) |
| 2015 (平成27)年 | 1.2 (0.0) | 1.1 (0.0) | 1.1 (0.0) | 1.0 (▲0.1) | 1.0 (▲0.1) | 1.0 (0.0) |
| 2012 (平成24)年 | 1.2 (▲0.1) | 1.1 (0.0) | 1.1 - | 1.1 (0.0) | 1.1 (0.0) | 1.0 (0.0) |

*全生保は民保（かんぼ生命を除く）、かんぼ生命、簡保、J A、県民共済・生協等を含む
*（ ）は前回調査との差

(3) 加入金額

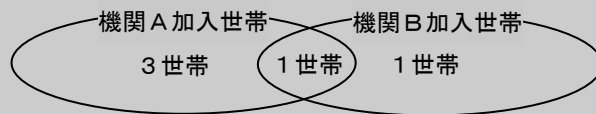
(1) 世帯加入金額とは

普通死亡保険金を受け取れる生命保険に加入している各世帯における、その保障合計金額の平均額のことである。これを式で示すと次のとおりである。

$$\text{世帯の普通死亡保険金額} = \frac{\text{全世帯員の普通死亡保険金額の総合計}}{\text{普通死亡保険金を受け取れる生命保険に加入している世帯数}}$$

家族特約などにより複数の世帯員が保障されている場合には、その金額も世帯加入金額に含まれている。

なお、全生保の世帯加入金額は、4機関（民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等）のうちいずれかに加入している世帯の平均加入金額であるため、平均金額の低い機関の世帯加入金額にひきずられて特定の1機関の世帯加入金額より全生保の加入金額が下回ることもある。たとえば機関Aに加入している4世帯がいずれも加入金額50万円、機関Bに加入している2世帯がいずれも加入金額1,000万円で、うちA、B双方の機関に加入している世帯が1世帯であるとする、機関Aの平均加入金額は50万円、機関Bの平均加入金額は1,000万円、全生保の平均加入金額は440万円となる。



$$\text{機関Aの世帯加入金額} = \frac{50 \text{ 万円} \times 4 \text{ 世帯}}{\text{全 4 世帯}} = 50 \text{ 万円}$$

$$\text{機関Bの世帯加入金額} = \frac{1,000 \text{ 万円} \times 2 \text{ 世帯}}{\text{全 2 世帯}} = 1,000 \text{ 万円}$$

$$\text{全生保の世帯加入金額} = \frac{(50 \text{ 万円} \times 4 \text{ 世帯}) + (1,000 \text{ 万円} \times 2 \text{ 世帯})}{\text{全 5 世帯}} = 440 \text{ 万円}$$

保険金・給付金の種類別の特色についてみると次のとおりである。

① 普通死亡保険金

死亡時期により受取金額が異なる場合、現時点での金額で計算されている。また、死亡保険金を年金で受け取る契約や特約に加入している場合には、総受取金額で計算されている。

② 疾病入院給付金（日額・一時金額）

ガンのみを対象とした入院や成人病等の特定疾病を対象とした入院のみに限定して支払われる入院給付金は含まれていない。

(2) 世帯主の加入金額とは

世帯主が、普通死亡保険金、疾病入院給付金（日額・一時金額）の各保障毎に、それを受け取れる生命保険に加入している各世帯における、世帯主の各保障合計金額の平均額のことである。これを式で示すと次のとおりである。（普通死亡保険金の例）

$$\text{世帯主の普通死亡} \quad \text{世帯主の普通死亡保険金額の総合計} \\ \text{保険金額} \quad = \quad \frac{\quad}{\text{世帯主が普通死亡保険金を受け取れる生命保険に加入している世帯数}}$$

* 疾病入院給付金（日額・一時金額）も同様の計算方法で算出している。

世帯主の加入金額を計算する際には、家族特約で保障されている金額も含めている。また、被保険者である世帯主が主たる被保険者でない場合も当該世帯の数にカウントしている。

なお、全生保の世帯主の加入金額が特定の1機関の世帯主の加入金額を下回ることがあるのは、前述のとおりである。

(3) 配偶者の加入金額とは

配偶者が、普通死亡保険金、疾病入院給付金（日額・一時金額）の各保障毎に、それを受け取れる生命保険に加入している各世帯における、配偶者の各保障合計金額の平均額のことである。これを式で示すと次のとおりである。（普通死亡保険金の例）

$$\text{配偶者の普通死亡} \quad \text{配偶者の普通死亡保険金額の総合計} \\ \text{保険金額} \quad = \quad \frac{\quad}{\text{配偶者が普通死亡保険金を受け取れる生命保険に加入している世帯数}}$$

* 疾病入院給付金（日額・一時金額）も同様の計算方法で算出している。

配偶者の加入金額を計算する際には、家族特約で保障されている金額も含めている。また、被保険者である配偶者が主たる被保険者でない場合も当該世帯の数にカウントしている。

なお、全生保の配偶者の加入金額が特定の1機関の配偶者の加入金額を下回ることがあるのは、前述のとおりである。

(ア) 普通死亡保険金

(a) 世帯の普通死亡保険金

世帯普通死亡保険金額（全生保）の平均は1,936万円（前回2,027万円）と前回に比べ91万円減少した。

これを機関別にみると、民保では1,884万円（前回1,927万円）、簡保は400万円（前回410万円）、JAは959万円（前回1,304万円）、県民共済・生協等は639万円（前回591万円）となっている。

時系列でみると、全生保、民保、簡保で2012（平成24）年以降、一貫して減少している。（図表I-29）

〈図表I-29〉 世帯普通死亡保険金額

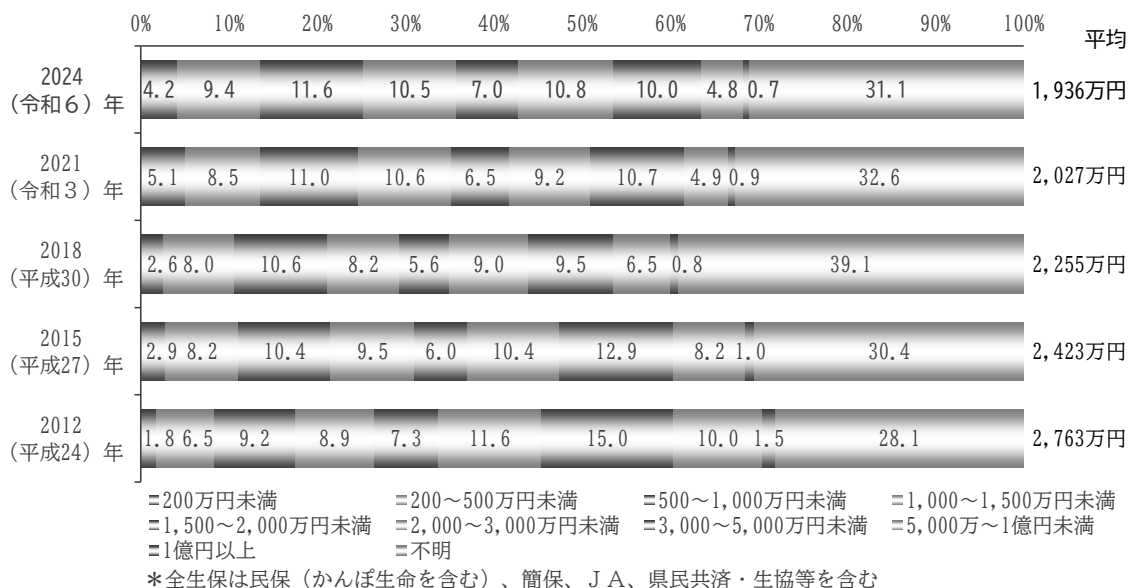
| | (万円) | | | | | |
|-----------------|--------------|--------------|-----------|-----------|--------------|------------|
| | 全生保 | 民保 | かんぽ生命 | 簡保 | J A | 県民共済・生協等 |
| 2024 (令和6)年 | 1,936 (▲91) | 1,884 (▲43) | 476 (▲21) | 400 (▲10) | 959 (▲345) | 639 (+48) |
| 2021 (令和3)年 | 2,027 (▲228) | 1,927 (▲152) | 497 (▲54) | 410 (▲81) | 1,304 (▲563) | 591 (▲140) |
| 2018 (平成30)年 | 2,255 (▲168) | 2,079 (▲256) | 551 (▲15) | 491 (▲49) | 1,867 (+94) | 731 (▲4) |
| 2015 (平成27)年 | 2,423 (▲340) | 2,335 (▲171) | 566 (+18) | 540 (▲48) | 1,773 (▲520) | 735 (▲95) |
| 2012 (平成24)年 | 2,763 (▲215) | 2,506 (▲252) | 548 (▲58) | 588 (▲88) | 2,293 (+1) | 830 (▲31) |

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、J A、県民共済・生協等を含む
*（ ）は前回調査との差

世帯普通死亡保険金額（全生保）の分布をみると、「500～1,000万円未満」が11.6%と最も多く、以下「2,000～3,000万円未満」（10.8%）、「1,000～1,500万円未満」（10.5%）が続いている。

時系列でみると、「2,000～3,000万円未満」（前回9.2%）が1.6ポイント増加している。（図表I-30）

〈図表I-30〉 世帯普通死亡保険金額（全生保）



全生保の世帯普通死亡保険金額について世帯主年齢別にみると、「30～34歳」で最も高く2,526万円となっている。

時系列でみると、「35～39歳」から「45～49歳」および「55～59歳」で2012（平成24）年以降、減少傾向が続いている。（図表 I-31）

〈図表 I-31〉 世帯普通死亡保険金額（全生保）（世帯主年齢別）

| | (万円) | | | | |
|--------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|----------------|
| | 2012 (平成24)年 | 2015 (平成27)年 | 2018 (平成30)年 | 2021 (令和3)年 | 2024 (令和6)年 |
| 全 体 | 2,763 | 2,423 | 2,255 | 2,027 | 1,936 |
| 29歳以下 | 1,902 | 2,405 | 2,475 | 1,754 | 1,747 |
| 30～34歳 | 3,126 | 3,093 | 2,883 | 2,516 | 2,526 |
| 35～39歳 | 3,203 | 3,050 | 2,857 | 2,525 | 2,450 |
| 40～44歳 | 3,760 | 3,277 | 3,032 | 2,714 | 2,475 |
| 45～49歳 | 3,918 | 3,287 | 3,050 | 2,980 | 2,313 |
| 50～54歳 | 3,789 | 3,388 | 3,183 | 2,296 | 2,504 |
| 55～59歳 | 3,202 | 3,175 | 2,618 | 2,312 | 2,103 |
| 60～64歳 | 2,545 | 2,362 | 2,493 | 2,033 | 1,910 |
| 65～69歳 | 1,725 | 1,799 | 1,615 | 1,478 | 1,492 |
| 70～74歳 | 1,661 | 1,288 | 1,367 | 1,460 | 1,114 |
| 75～79歳 | 1,586 | 989 | 1,210 | 1,058 | 1,158 |
| 80～84歳 | 1,214 | 1,411 | 1,059 | 876 | 922 |
| 85～89歳 | 2,074 | 692 | 1,019 | 1,104 | 618 |
| 90歳以上 | 1,200 | 1,802 | 1,336 | 684 | 1,247 |

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む
*90歳以上はサンプルが30未満

民保の世帯普通死亡保険金額について世帯主年齢別にみると、「30～34歳」で最も高く2,576万円となっている。

時系列でみると、「35～39歳」、「40～44歳」で2012（平成24）年以降、一貫して減少している。（図表 I -32）

〈図表 I -32〉 世帯普通死亡保険金額（民保）（世帯主年齢別）

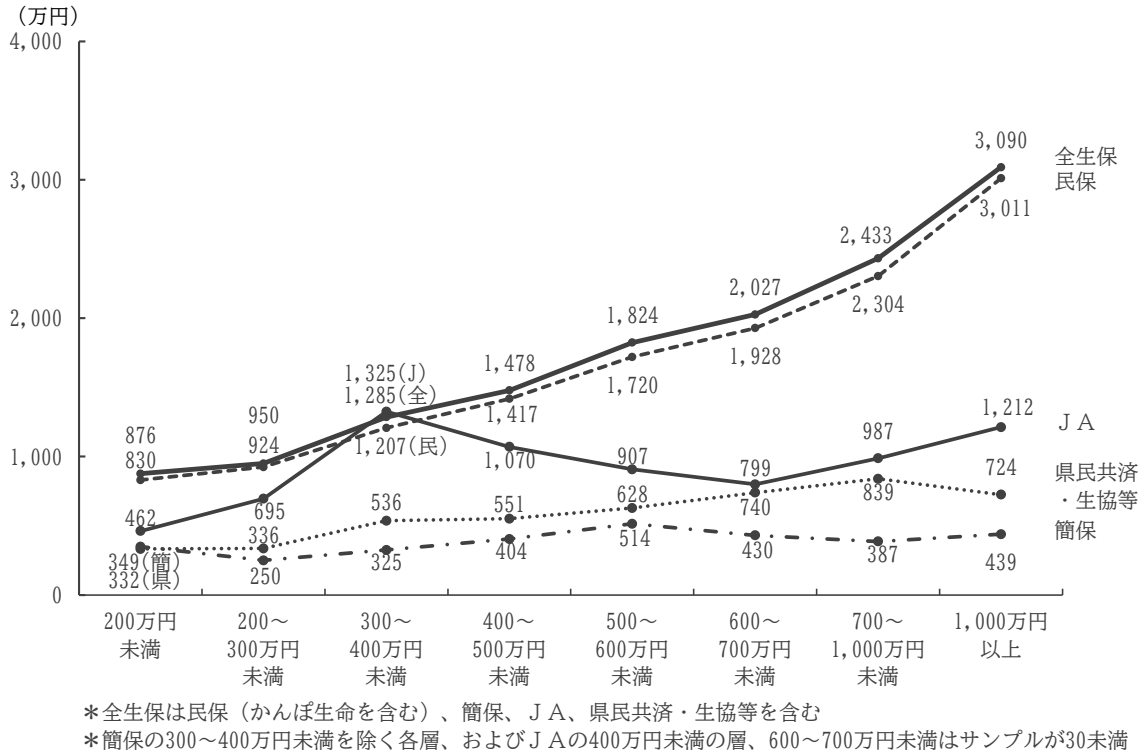
| | (万円) | | | | |
|--------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|----------------|
| | 2012 (平成24)年 | 2015 (平成27)年 | 2018 (平成30)年 | 2021 (令和3)年 | 2024 (令和6)年 |
| 全 体 | 2,506 | 2,335 | 2,079 | 1,927 | 1,884 |
| 29歳以下 | 1,845 | 2,337 | 2,289 | 1,943 | 1,790 |
| 30～34歳 | 3,042 | 3,145 | 2,728 | 2,273 | 2,576 |
| 35～39歳 | 3,088 | 2,921 | 2,666 | 2,589 | 2,418 |
| 40～44歳 | 3,460 | 2,981 | 2,968 | 2,516 | 2,483 |
| 45～49歳 | 3,621 | 3,214 | 2,721 | 2,837 | 2,183 |
| 50～54歳 | 3,314 | 3,215 | 2,850 | 2,286 | 2,397 |
| 55～59歳 | 2,806 | 3,032 | 2,320 | 2,086 | 2,009 |
| 60～64歳 | 2,078 | 2,215 | 2,296 | 1,789 | 1,778 |
| 65～69歳 | 1,540 | 1,766 | 1,534 | 1,375 | 1,501 |
| 70～74歳 | 1,435 | 1,211 | 1,209 | 1,329 | 1,062 |
| 75～79歳 | 1,413 | 972 | 1,172 | 987 | 1,168 |
| 80～84歳 | 1,245 | 1,351 | 979 | 863 | 897 |
| 85～89歳 | 1,976 | 646 | 1,044 | 1,150 | 528 |
| 90歳以上 | 1,333 | 1,986 | 1,459 | 588 | 1,136 |

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

*90歳以上はサンプルが30未満

世帯年収別にみると、全生保と民保ともに世帯年収が高くなるほど加入金額も高く、世帯年収「1,000万円以上」では、全生保が3,090万円、民保が3,011万円となっている。(図表 I-33)

〈図表 I-33〉世帯普通死亡保険金額（世帯年収別）



(b) 世帯員の普通死亡保険金

(i) 世帯主の普通死亡保険金

世帯主の普通死亡保険金額（全生保）の平均は、1,258万円（前回1,386万円）となっている。

これを機関別にみると、民保では1,280万円（前回1,385万円）、簡保は333万円（前回405万円）、JAは892万円（前回1,142万円）、県民共済・生協等は463万円（前回483万円）となっている。

前回と比較すると、全生保で128万円、民保で105万円、JAで250万円の減少となっている。(図表 I-34)

〈図表 I-34〉世帯主の普通死亡保険金額

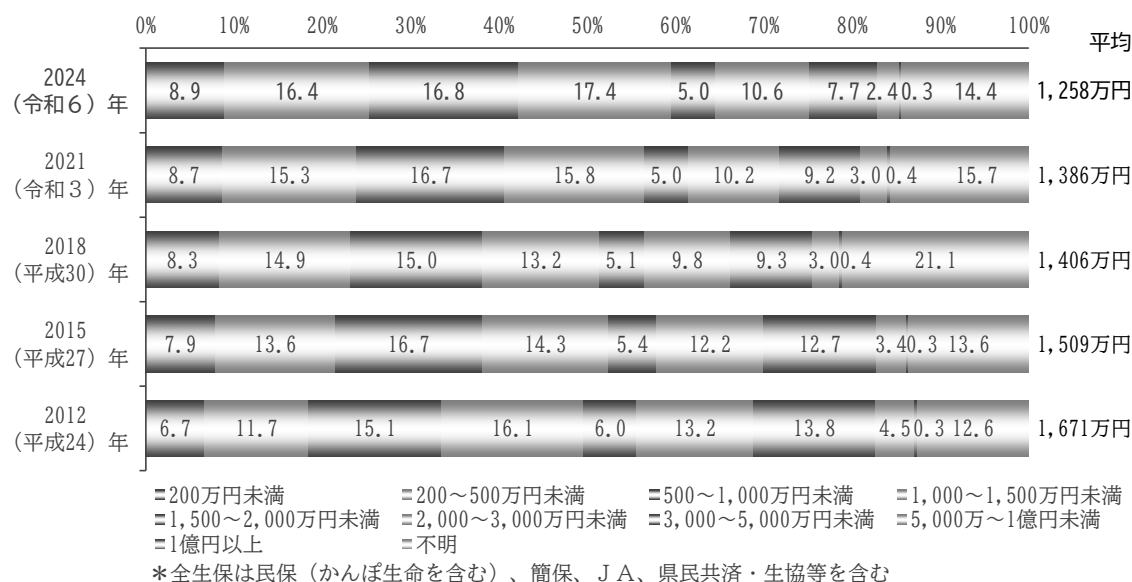
| | (万円) | | | | | |
|--------------|--------------|--------------|-----------|-----------|--------------|-----------|
| | 全生保 | 民保 | かんぽ生命 | 簡保 | JA | 県民共済・生協等 |
| 2024 (令和6)年 | 1,258 (▲128) | 1,280 (▲105) | 404 (▲3) | 333 (▲72) | 892 (▲250) | 463 (▲20) |
| 2021 (令和3)年 | 1,386 (▲20) | 1,385 (+17) | 407 (+7) | 405 (+54) | 1,142 (▲138) | 483 (▲12) |
| 2018 (平成30)年 | 1,406 (▲103) | 1,368 (▲154) | 400 (▲22) | 351 (▲60) | 1,280 (▲70) | 495 (▲26) |
| 2015 (平成27)年 | 1,509 (▲162) | 1,522 (▲133) | 422 (▲6) | 411 (▲11) | 1,350 (▲171) | 521 (▲77) |
| 2012 (平成24)年 | 1,671 (▲97) | 1,655 (▲132) | 428 (+8) | 422 (▲23) | 1,521 (▲103) | 598 (+15) |

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む
*（ ）は前回調査との差

世帯主の普通死亡保険金額(全生保)の分布をみると、「1,000～1,500万円未満」が17.4%と最も多く、以下、「500～1,000万円未満」(16.8%)、「200～500万円未満」(16.4%)の順で続いている。

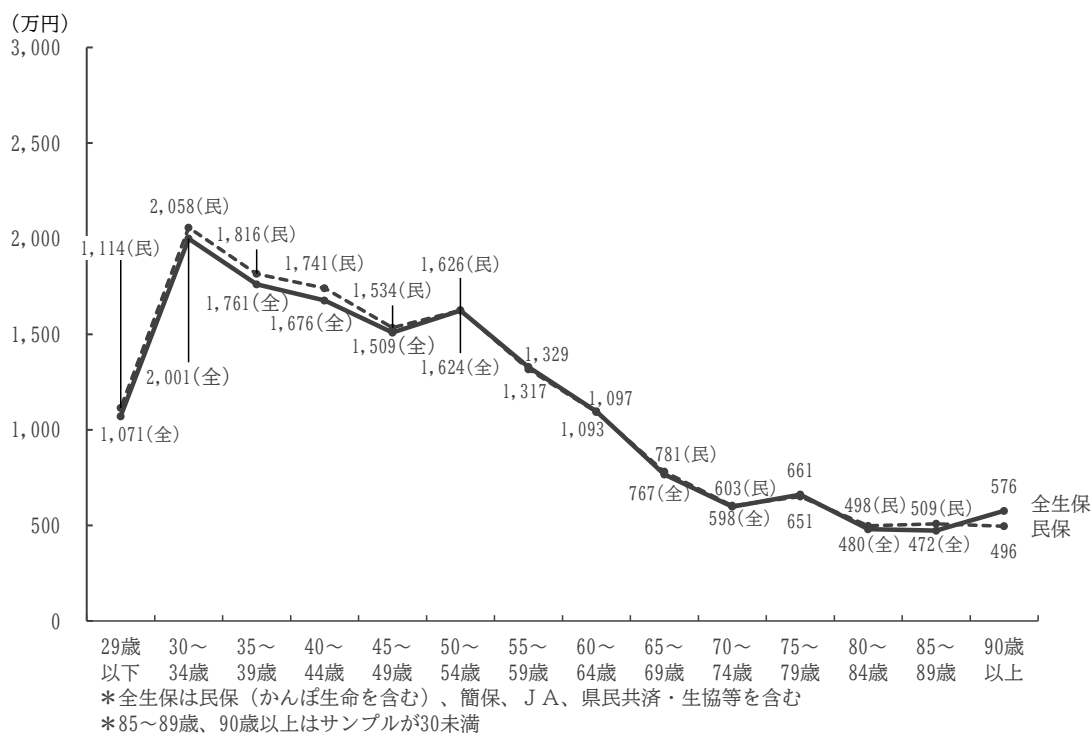
時系列でみると、「200万円未満」と「200～500万円未満」は2012(平成24)年より増加傾向にあり、「3,000～5,000万円未満」は2012(平成24)年より減少している。(図表I-35)

〈図表 I -35〉 世帯主の普通死亡保険金額 (全生保)



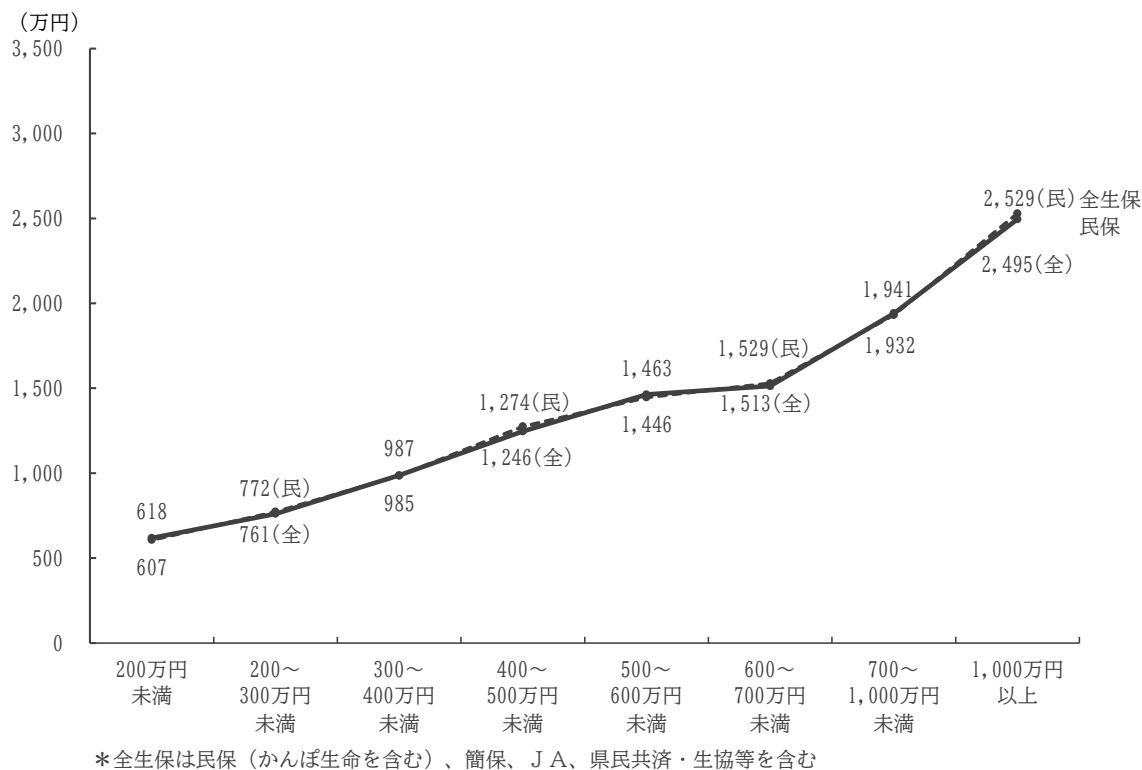
世帯主年齢別にみると、全生保と民保ともに「30～34歳」で最も高く、全生保は2,001万円、民保は2,058万円となっている。(図表I-36)

〈図表 I -36〉 世帯主の普通死亡保険金額 (世帯主年齢別)



世帯主年収別にみると、全生保と民保いずれも世帯主年収が高くなるほど加入金額も高くなっており、世帯主年収「1,000万円以上」では、全生保が2,495万円、民保が2,529万円となっている。(図表 I-37)

〈図表 I-37〉 世帯主の普通死亡保険金額（世帯主年収別）



(ii) 配偶者の普通死亡保険金

配偶者の普通死亡保険金額（全生保）の平均は、691万円（前回692万円）となっている。

これを機関別にみると、民保では681万円（前回683万円）、簡保は300万円（前回326万円）、JAは679万円（前回726万円）、県民共済・生協等は349万円（前回322万円）となっている。(図表 I-38)

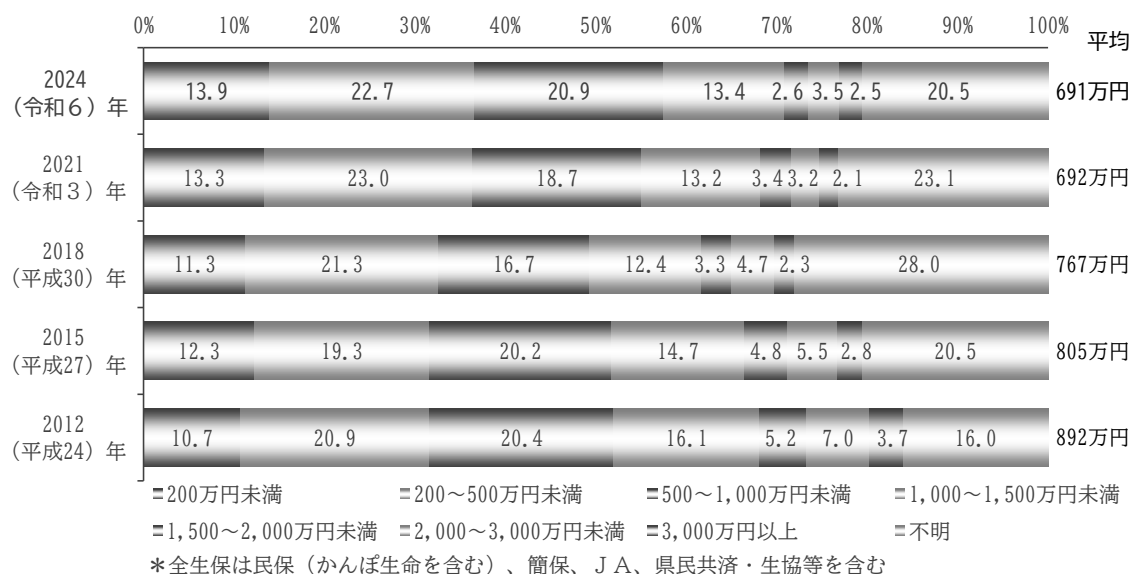
〈図表 I-38〉 配偶者の普通死亡保険金額

| 年 | 全生保 (万円) | | | 簡保 (万円) | JA (万円) | 県民共済・生協等 (万円) |
|--------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|------------------------------|--------------------------|
| | 全生保 | 民保 | かんぽ生命 | | | |
| 2024 (令和6)年 | 691 (▲1) [687 (▲2)] | 681 (▲2) [677 (▲2)] | 319 (▲17) [319 (▲17)] | 300 (▲26) [303 (▲25)] | 679 (▲47) [673 (▲53)] | 349 (+27) [349 (+27)] |
| 2021 (令和3)年 | 692 (▲75) [689 (▲69)] | 683 (▲35) [679 (▲29)] | 336 (0) [336 (+2)] | 326 (+15) [328 (+19)] | 726 (▲210) [726 (▲209)] | 322 (▲16) [322 (▲16)] |
| 2018 (平成30)年 | 767 (▲38) [758 (▲49)] | 718 (▲55) [708 (▲69)] | 336 (▲12) [334 (▲16)] | 311 (▲37) [309 (▲39)] | 936 (+35) [935 (+34)] | 338 (+10) [338 (+10)] |
| 2015 (平成27)年 | 805 (▲87) [807 (▲82)] | 773 (▲53) [777 (▲44)] | 348 (▲7) [350 (▲5)] | 348 (▲25) [348 (▲25)] | 901 (▲156) [901 (▲161)] | 328 (▲80) [328 (▲77)] |
| 2012 (平成24)年 | 892 (0) [889 (+3)] | 826 (▲11) [821 (▲9)] | 355 (+12) [355 (+27)] | 373 (▲11) [373 (▲11)] | 1,057 (▲37) [1,062 (▲33)] | 408 (+15) [405 (+12)] |

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む
 * () は前回調査との差
 * 下段は男性世帯主の配偶者

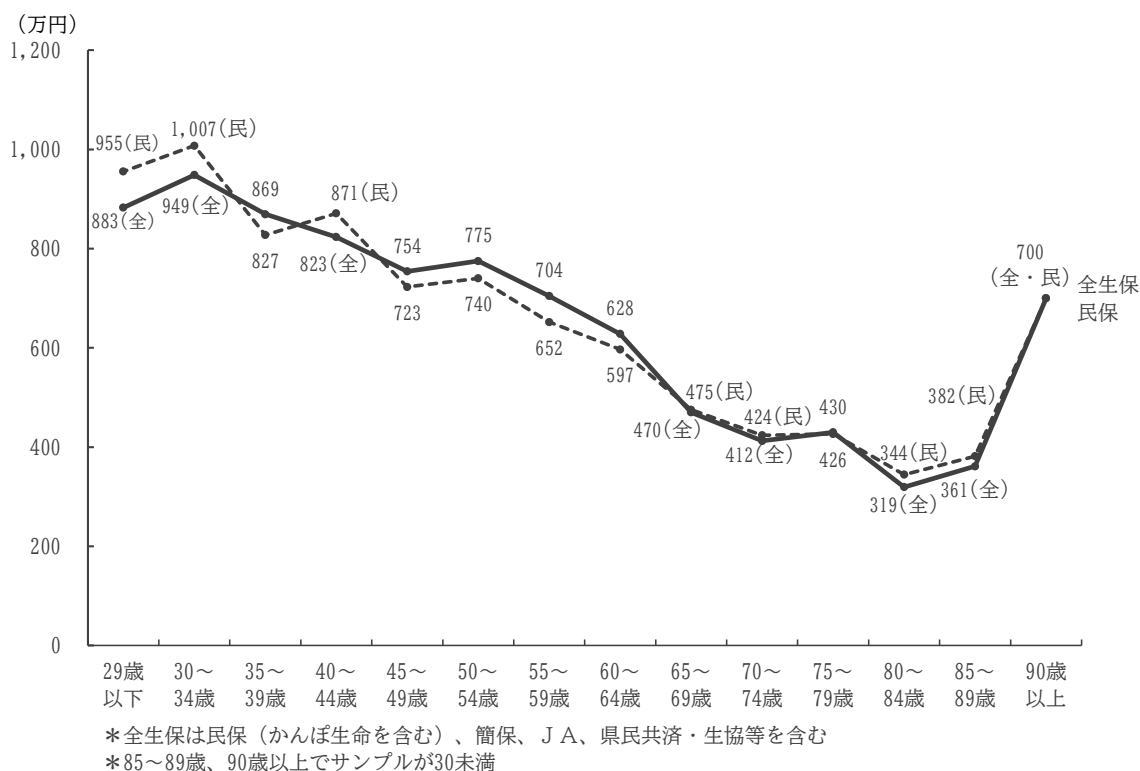
配偶者の普通死亡保険金額（全生保）の分布をみると、「200～500万円未満」が22.7%と最も多く、以下「500～1,000万円未満」（20.9%）、「200万円未満」（13.9%）が続いている。（図表 I -39）

〈図表 I -39〉 配偶者の普通死亡保険金額（全生保）



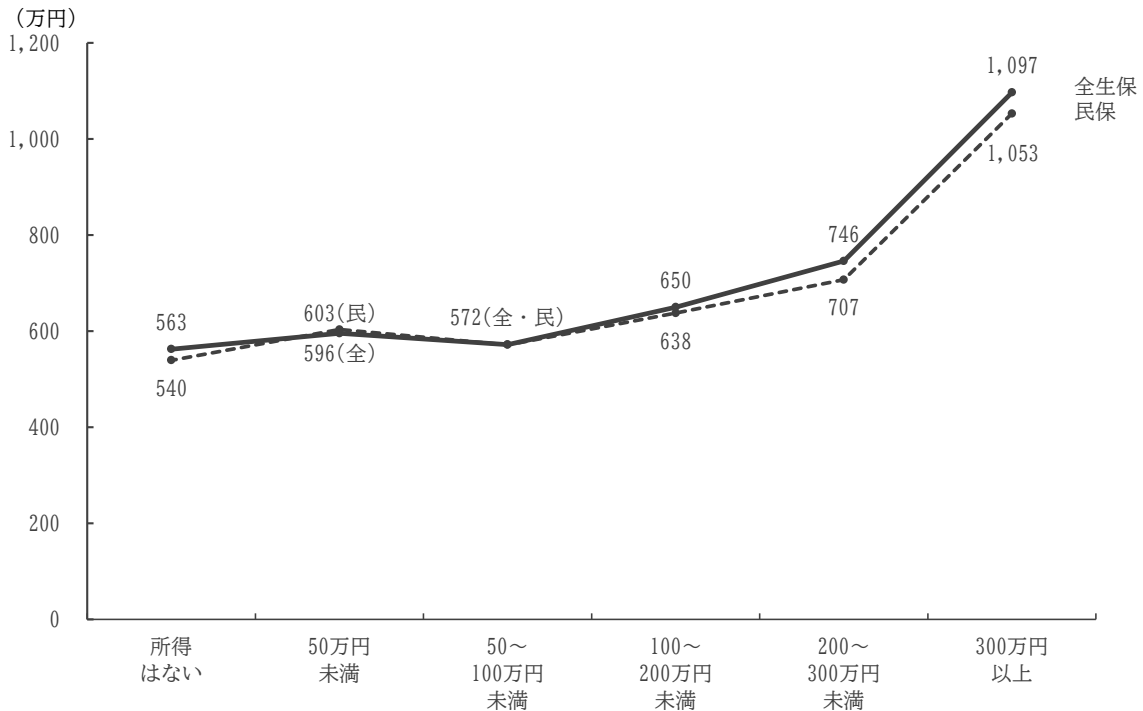
配偶者の年齢別にみると、全生保、民保ともに「30～34歳」で、それぞれ最も高くなっている。（図表 I -40）

〈図表 I -40〉 配偶者の普通死亡保険金額（配偶者の年齢別）



配偶者の年収別にみると、全生保と民保ともに配偶者の年収「300万円以上」で最も高く、全生保が1,097万円、民保が1,053万円となっている。(図表 I-41)

〈図表 I-41〉 配偶者の普通死亡保険金額 (配偶者の年収別)



*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

(イ) 疾病入院給付金

(a) 世帯員の疾病入院給付金

(i) 世帯主の疾病入院給付金

世帯主の疾病入院給付金日額 (全生保) の平均は、9.9 千円 (前回 9.8 千円) となっている。

これを機関別にみると、民保では9.2 千円 (前回 9.2 千円)、簡保は6.6 千円 (前回 6.6 千円)、JA は9.1 千円 (前回 10.3 千円)、県民共済・生協等は6.5 千円 (前回 6.3 千円) となっている。

前回と比較すると、大きな差異はみられなかった。(図表 I-42)

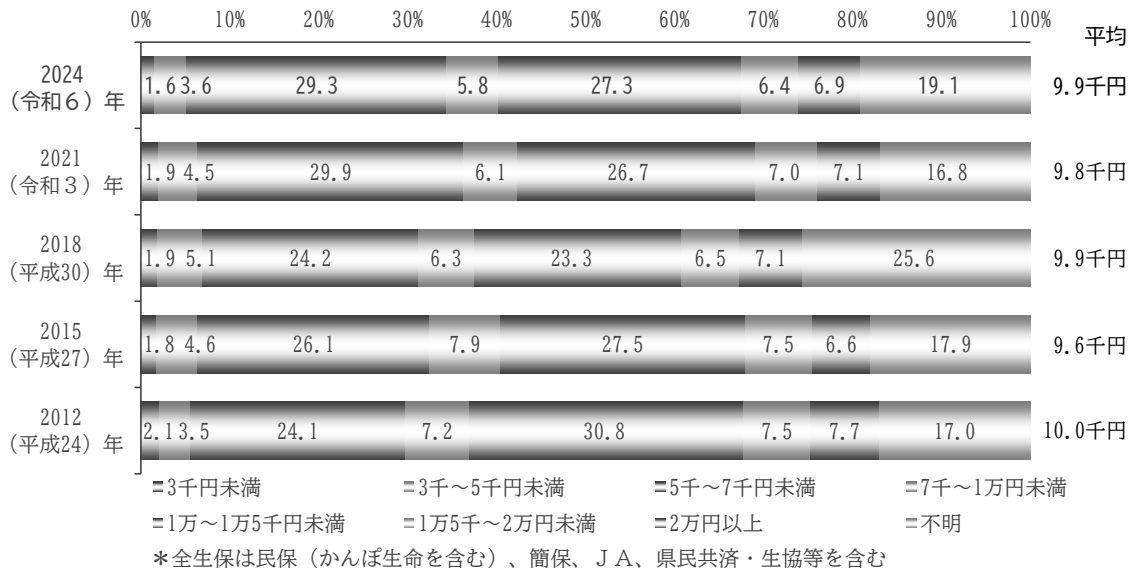
〈図表 I-42〉 世帯主の疾病入院給付金日額

| | (千円) | | | | | |
|---------------|-------------|------------|------------|------------|-------------|------------|
| | 全生保 | 民保 | かんぽ生命 | 簡保 | J A | 県民共済・生協等 |
| 2024 (令和6) 年 | 9.9 (+0.1) | 9.2 (0.0) | 6.8 (0.0) | 6.6 (0.0) | 9.1 (▲1.2) | 6.5 (+0.2) |
| 2021 (令和3) 年 | 9.8 (▲0.1) | 9.2 (+0.1) | 6.8 (+0.7) | 6.6 (+0.9) | 10.3 (+2.7) | 6.3 (+0.1) |
| 2018 (平成30) 年 | 9.9 (+0.3) | 9.1 (+0.2) | 6.1 (▲0.1) | 5.7 (▲0.2) | 7.6 (+0.2) | 6.2 (0.0) |
| 2015 (平成27) 年 | 9.6 (▲0.4) | 8.9 (▲0.3) | 6.2 (▲0.1) | 5.9 (▲0.3) | 7.4 (▲0.2) | 6.2 (+0.1) |
| 2012 (平成24) 年 | 10.0 (▲0.4) | 9.2 (0.0) | 6.3 (▲0.6) | 6.2 (▲0.4) | 7.6 (+0.2) | 6.1 (▲0.1) |

*全生保は民保 (かんぽ生命を含む)、簡保、JA、県民共済・生協等を含む
* () は前回調査との差

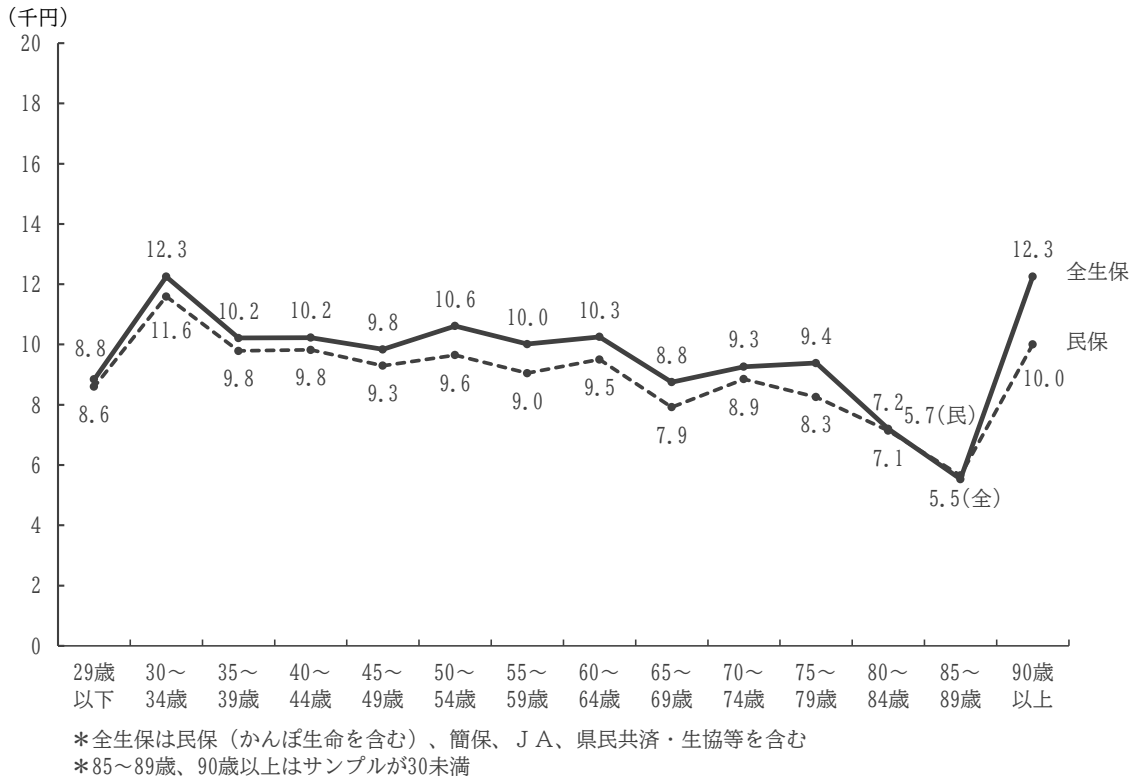
世帯主の疾病入院給付金日額（全生保）の分布をみると、「5千～7千円未満」が最も多く29.3%、次いで「1万～1万5千円未満」が27.3%となっている。（図表 I -43）

〈図表 I -43〉 世帯主の疾病入院給付金日額（全生保）



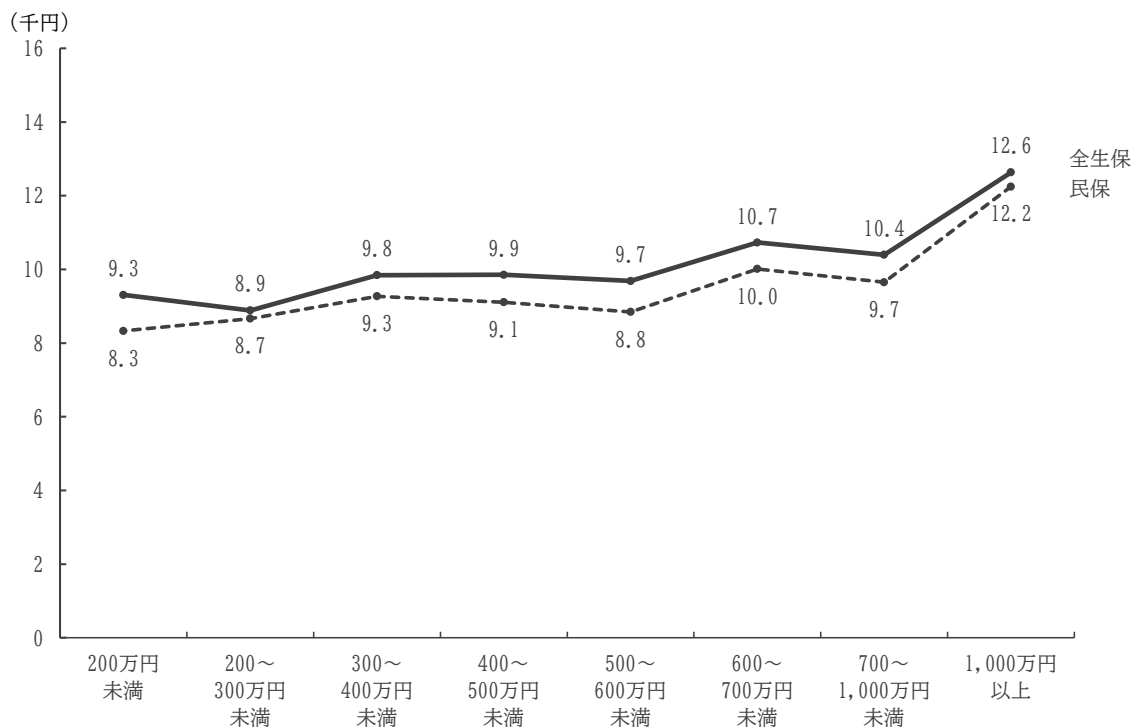
世帯主年齢別にみると、全生保、民保ともに「30～34歳」で最も高く、全生保は12.3千円、民保は11.6千円となっている。（図表 I -44）

〈図表 I -44〉 世帯主の疾病入院給付金日額（世帯主年齢別）



世帯主年収別にみると、全生保、民保ともに概ね世帯主年収が高くなるほど加入金額が高く、全生保は「600万円以上」の層、民保は「600～700万円未満」、「1,000万円以上」の層で1万円台となっている。(図表 I-45)

〈図表 I-45〉世帯主の疾病入院給付金日額（世帯主年収別）



*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む

世帯主の疾病入院給付金一時金額（全生保）の平均は、18.5万円となっている。これを機関別にみると、民保では18.7万円、JAは15.0万円、県民共済・生協等は7.3万円となっている。(図表 I-46)

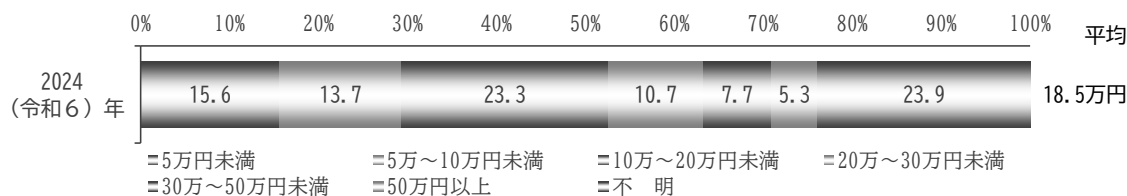
〈図表 I-46〉世帯主の疾病入院給付金一時金額

| | (万円) | | | | |
|-------------|------|------|-------|------|----------|
| | 全生保 | 民保 | かんぽ生命 | JA | 県民共済・生協等 |
| 2024 (令和6)年 | 18.5 | 18.7 | 3.0 | 15.0 | 7.3 |

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、JA、県民共済・生協等を含む

世帯主の疾病入院給付金一時金額（全生保）の分布をみると、「10万円～20万円未満」が最も多く23.3%となっている。(図表 I-47)

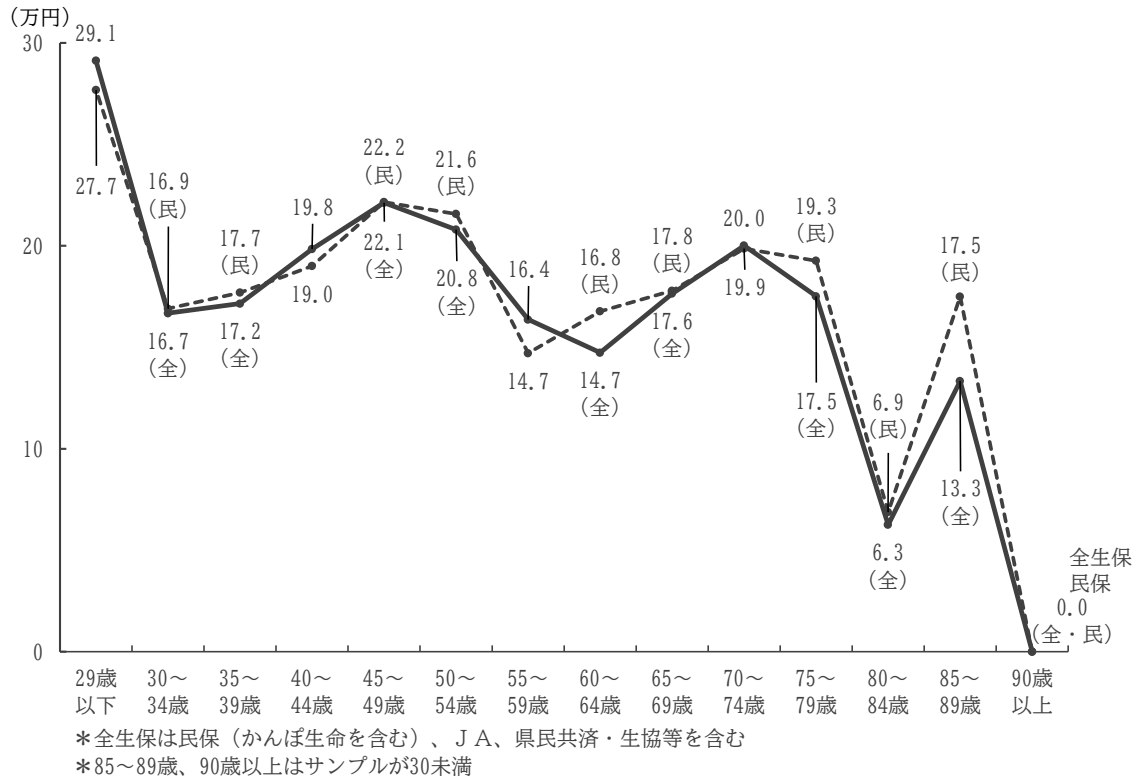
〈図表 I-47〉世帯主の疾病入院給付金一時金額（全生保）



*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、JA、県民共済・生協等を含む

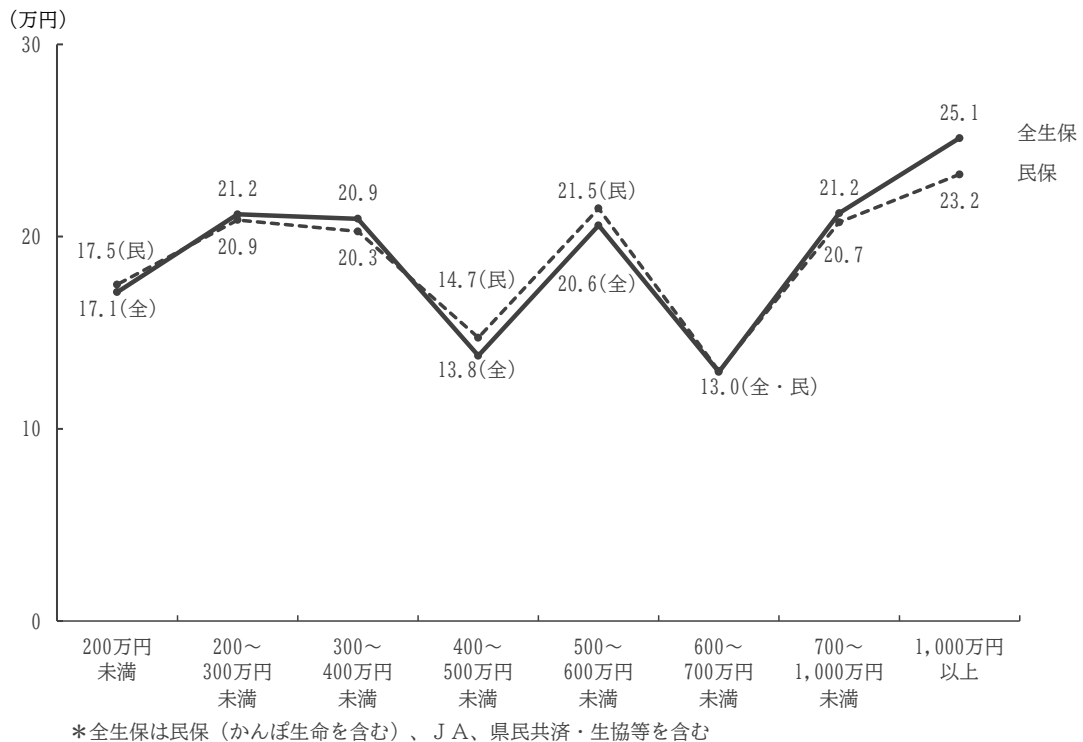
世帯主年齢別にみると、全生保、民保ともに「29歳以下」で最も高く、全生保は29.1万円、民保は27.7万円となっている。(図表 I-48)

〈図表 I-48〉世帯主の疾病入院給付金一時金額（世帯主年齢別）



世帯主年収別にみると、全生保、民保ともに「1,000万円以上」で最も高く、全生保は25.1万円、民保は23.2万円となっている。(図表 I-49)

〈図表 I-49〉世帯主の疾病入院給付金一時金額（世帯主年収別）



(ii) 配偶者の疾病入院給付金

配偶者の疾病入院給付金日額（全生保）の平均は、8.4千円（前回8.1千円）となっている。

これを機関別にみると、民保では7.8千円（前回7.7千円）、簡保は5.9千円（前回5.9千円）、JAは7.0千円（前回6.9千円）、県民共済・生協等は6.1千円（前回5.7千円）となっている。

時系列でみると、県民共済・生協等で2012（平成24）年以降、一貫して増加している。

（図表 I -50）

〈図表 I -50〉 配偶者の疾病入院給付金日額

| | (千円) | | | | | |
|-----------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| | 全生保 | 民保 | かんぽ生命 | 簡保 | J A | 県民共済・生協等 |
| 2024 (令和6)年 | 8.4 (+0.3) [8.3 (+0.1)] | 7.8 (+0.1) [7.8 (+0.1)] | 5.5 (▲0.6) [5.5 (▲0.6)] | 5.9 (0.0) [5.9 (0.0)] | 7.0 (+0.1) [7.1 (+0.2)] | 6.1 (+0.4) [6.1 (+0.4)] |
| 2021 (令和3)年 | 8.1 (▲0.3) [8.2 (▲0.2)] | 7.7 (+0.1) [7.7 (+0.1)] | 6.1 (+0.5) [6.1 (+0.6)] | 5.9 (+0.7) [5.9 (+0.7)] | 6.9 (+0.3) [6.9 (+0.2)] | 5.7 (+0.2) [5.7 (+0.2)] |
| 2018 (平成30)年 | 8.4 (+0.1) [8.4 (+0.1)] | 7.6 (+0.1) [7.6 (+0.1)] | 5.6 (+0.4) [5.5 (+0.3)] | 5.2 (0.0) [5.2 (0.0)] | 6.6 (▲0.2) [6.7 (▲0.1)] | 5.5 (+0.2) [5.5 (+0.2)] |
| 2015 (平成27)年 | 8.3 (▲0.2) [8.3 (▲0.2)] | 7.5 (▲0.2) [7.5 (▲0.2)] | 5.2 (0.0) [5.2 (▲0.2)] | 5.2 (▲0.1) [5.2 (▲0.1)] | 6.8 (▲0.1) [6.8 (▲0.1)] | 5.3 (+0.1) [5.3 (+0.1)] |
| 2012 (平成24)年 | 8.5 (0.0) [8.5 (0.0)] | 7.7 (+0.4) [7.7 (+0.4)] | 5.2 (+0.3) [5.4 (+0.6)] | 5.3 (▲0.3) [5.3 (▲0.3)] | 6.9 (+0.5) [6.9 (+0.5)] | 5.2 (▲0.2) [5.2 (▲0.2)] |

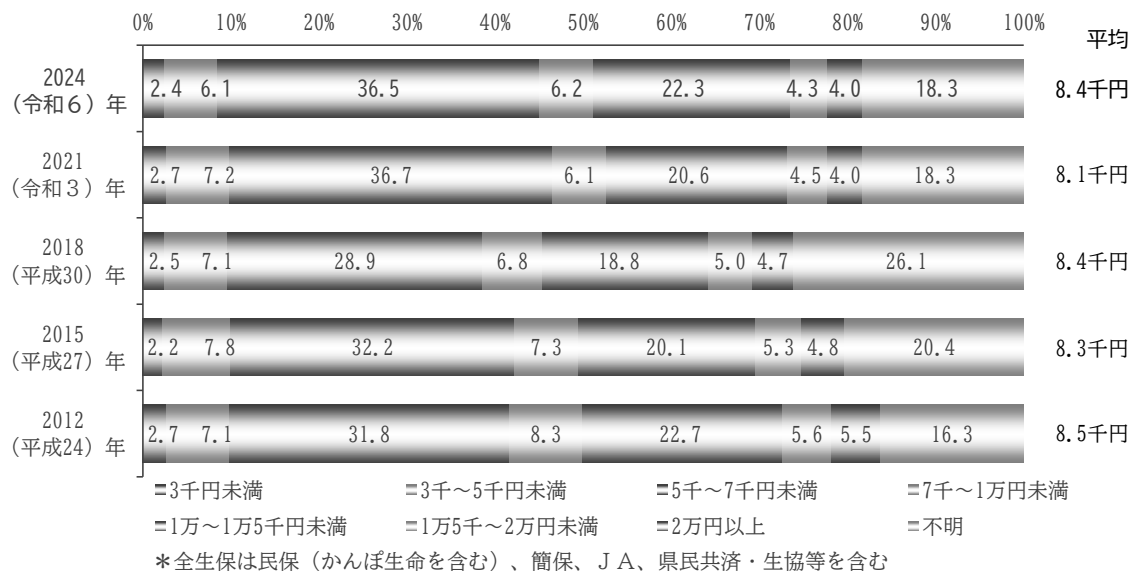
*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、J A、県民共済・生協等を含む

*（ ）は前回調査との差

*下段は男性世帯主の配偶者

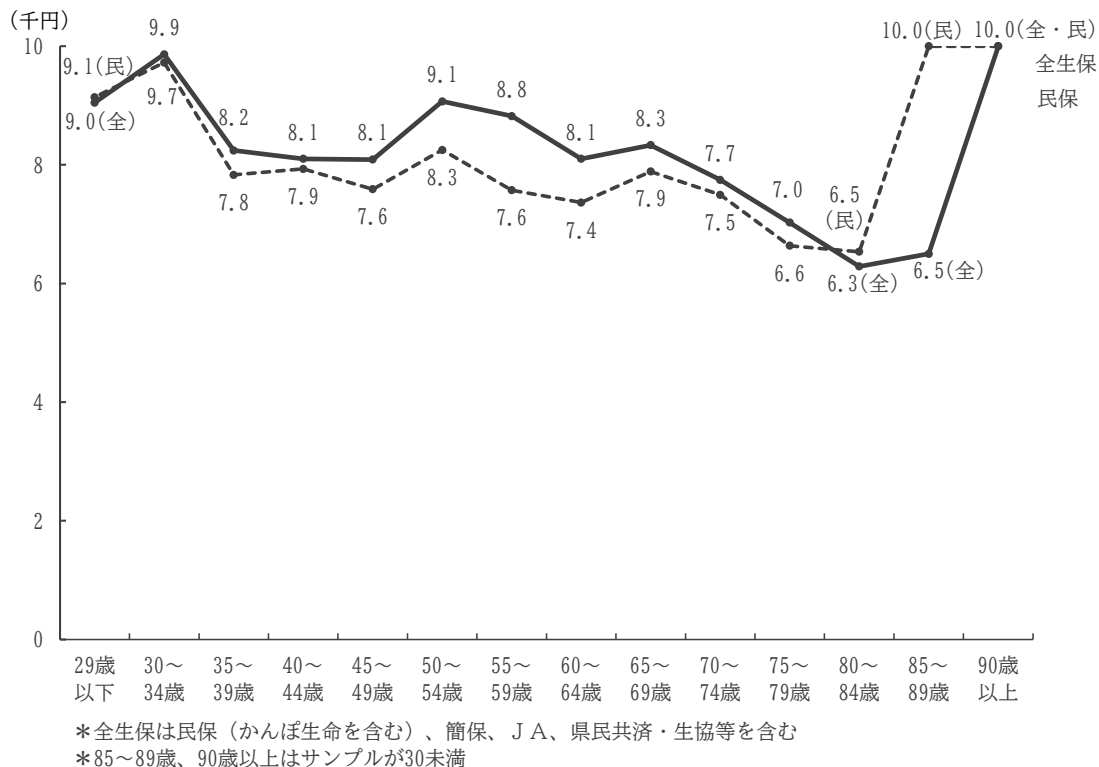
配偶者の疾病入院給付金日額（全生保）の分布をみると、「5千～7千円未満」が36.5%と最も多く、「1万～1万5千円未満」（22.3%）が続いている。（図表 I -51）

〈図表 I -51〉 配偶者の疾病入院給付金日額（全生保）



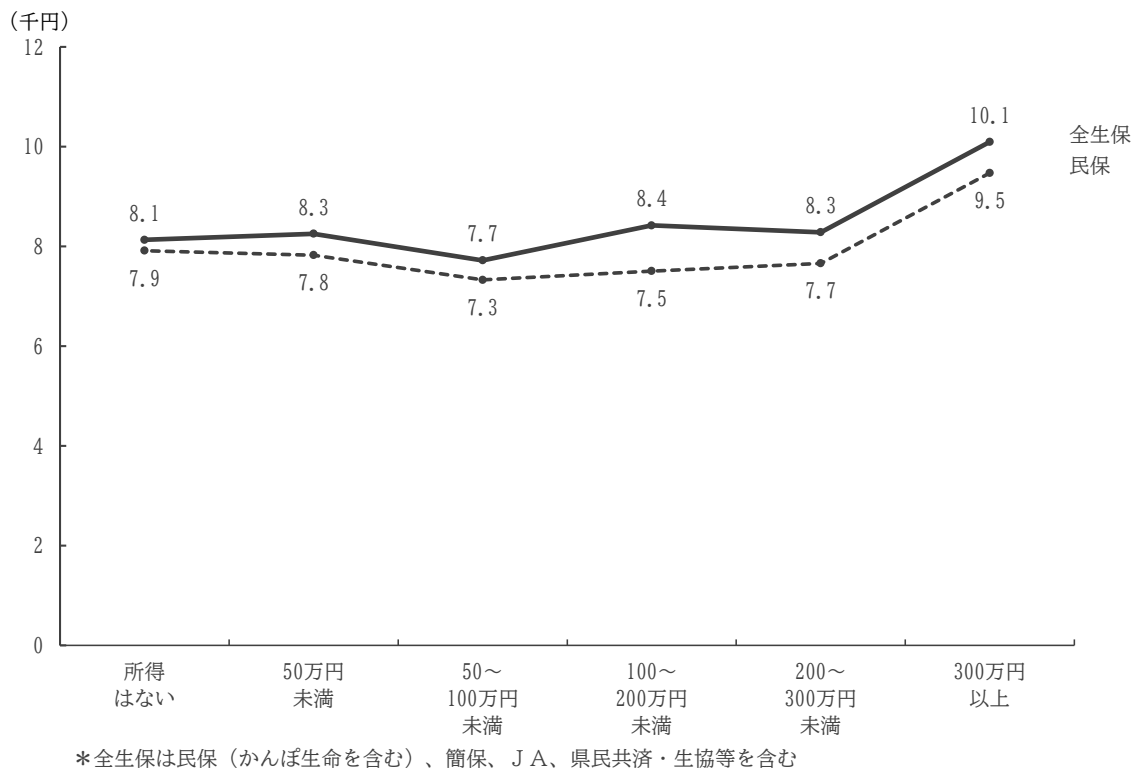
配偶者の年齢別にみると、全生保、民保ともに「30～34歳」が最も高く、全生保は9.9千円、民保は9.7千円となっている。(図表 I -52)

〈図表 I -52〉 配偶者の疾病入院給付金日額（配偶者の年齢別）



配偶者の年収別にみると、全生保と民保ともに「300万円以上」で最も高く、全生保が10.1千円、民保が9.5千円となっている。(図表 I -53)

〈図表 I -53〉 配偶者の疾病入院給付金日額（配偶者の年収別）



配偶者の疾病入院給付金一時金額（全生保）の平均は、19.0万円となっている。これを機関別にみると、民保では19.2万円、JAは16.3万円、県民共済・生協等は4.2万円となっている。（図表 I-54）

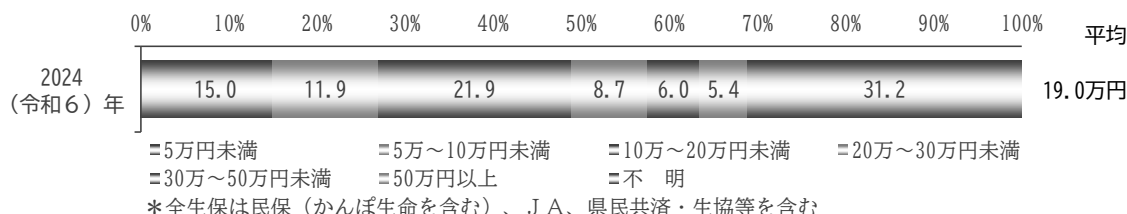
〈図表 I-54〉 配偶者の疾病入院給付金一時金額

| | (万円) | | | | |
|----------------|----------------|----------------|--------------|----------------|--------------|
| | 全生保 | 民保 | かんぽ生命 | J A | 県民共済・生協等 |
| 2024 (令和6)年 | 19.0 [19.1] | 19.2 [19.3] | 5.5 [5.5] | 16.3 [16.3] | 4.2 [4.2] |

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、J A、県民共済・生協等を含む
*下段は男性世帯主の配偶者

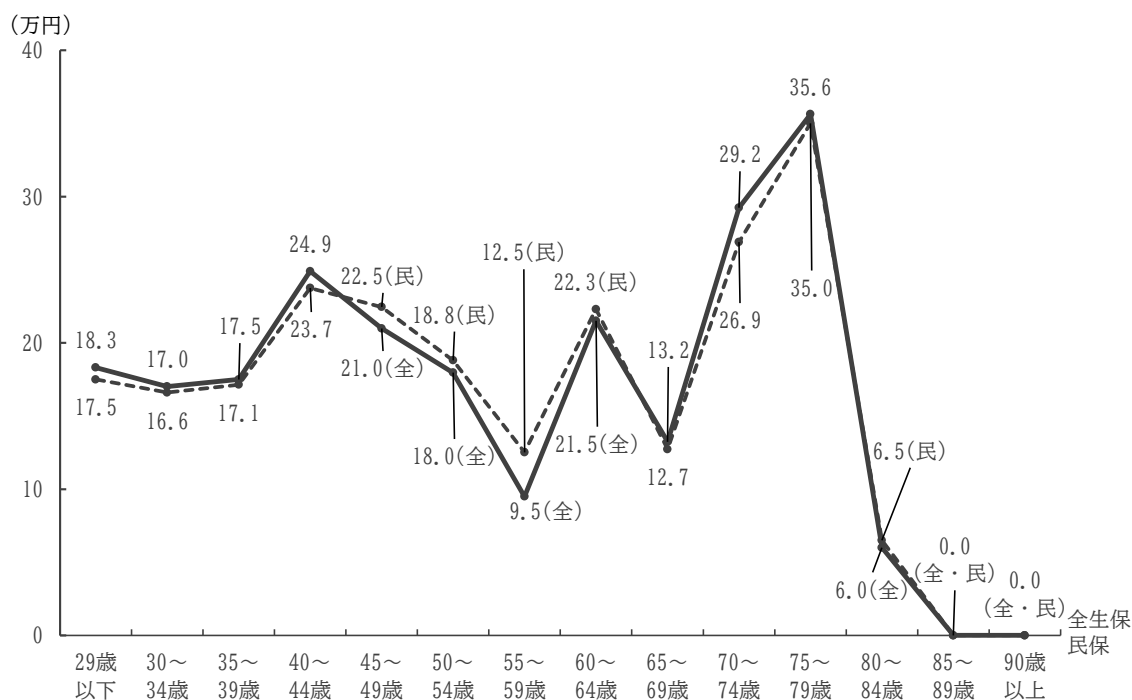
配偶者の疾病入院給付金一時金額（全生保）の分布をみると、「10万～20万円未満」が最も多く21.9%となっている。（図表 I-55）

〈図表 I-55〉 配偶者の疾病入院給付金一時金額（全生保）



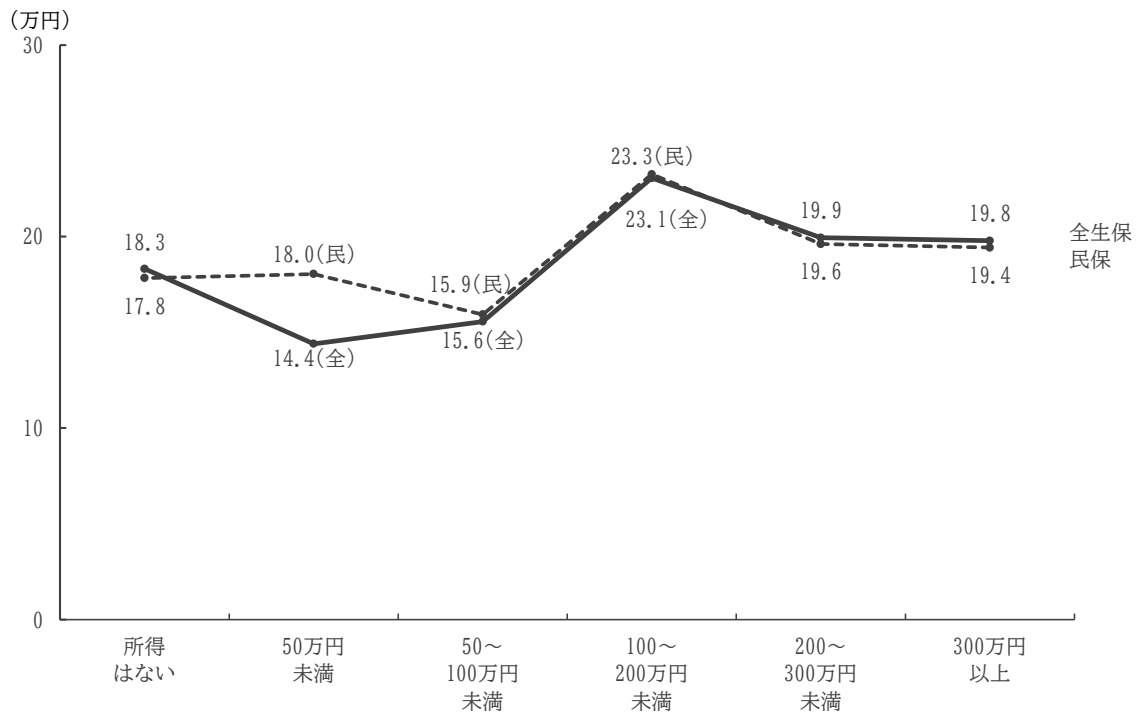
配偶者の年齢別にみると、全生保、民保ともに「75～79歳」が最も高く、全生保は35.6万円、民保は35.0万円となっている。（図表 I-56）

〈図表 I-56〉 配偶者の疾病入院給付金一時金額（配偶者の年齢別）



配偶者の年収別にみると、全生保と民保ともに「100～200万円未満」で最も高く、全生保が23.1万円、民保が23.3万円となっている。(図表 I-57)

〈図表 I-57〉 配偶者の疾病入院給付金一時金額（配偶者の年収別）



*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、JA、県民共済・生協等を含む

(4) 生命保険（個人年金保険を含む）の年間払込保険料

(1) 世帯年間払込保険料とは

生命保険（個人年金保険を含む）に加入している世帯における保険料払込期間中（本調査時点）の契約について、1年間に払い込む保険料の世帯総額の平均額を示している。これを式に表すと次のとおりである。

$$\text{世帯年間払込保険料} = \frac{\text{全世帯員の年間払込保険料の総合計}}{\text{生命保険に加入している世帯数}}$$

- (a) 「保険料払込期間中の契約」には、一時払いで払い込んだ保険料、頭金制度を利用して払い込んだ保険料、払込が完了している契約の既払込保険料を含めていない。
- (b) 配当金の分だけ保険料の払込が少なくなる契約は、実際に払い込んだ保険料（実質負担額）を集計対象としている。
- (c) 世帯年間払込保険料の中には個人年金保険の保険料も含まれている。

(2) 世帯主の年間払込保険料とは

保険料払込期間中（本調査時点）の契約について、世帯主が1年間に払い込む保険料の総額の平均額を示している。これを式に表すと次のとおりである。

$$\text{世帯主の年間払込保険料} = \frac{\text{世帯主の年間払込保険料の総合計}}{\text{世帯主が生命保険に加入している世帯数}}$$

- (a) 「保険料払込期間中の契約」には、一時払いで払い込んだ保険料、頭金制度を利用して払い込んだ保険料、払込が完了している契約の既払込保険料を含めていない。
- (b) 配当金の分だけ保険料の払込が少なくなる契約は、実際に払い込んだ保険料（実質負担額）を集計対象としている。
- (c) 世帯主の年間払込保険料の中には個人年金保険の保険料も含まれている。

(3) 配偶者の年間払込保険料とは

保険料払込期間中（本調査時点）の契約について、配偶者が1年間に払い込む保険料の総額の平均額を示している。これを式に表すと次のとおりである。

$$\text{配偶者の年間払込保険料} = \frac{\text{配偶者の年間払込保険料の総合計}}{\text{配偶者が生命保険に加入している世帯数}}$$

- (a) 「保険料払込期間中の契約」には、一時払いで払い込んだ保険料、頭金制度を利用して払い込んだ保険料、払込が完了している契約の既払込保険料を含めていない。
- (b) 配当金の分だけ保険料の払込が少なくなる契約は、実際に払い込んだ保険料（実質負担額）を集計対象としている。
- (c) 配偶者の年間払込保険料の中には個人年金保険の保険料も含まれている。

(ア) 世帯年間払込保険料

世帯の平均年間払込保険料（全生保）は、35.3万円（前回37.1万円）となっている。

これを機関別にみると、民保では35.4万円（前回35.9万円）、簡保は19.6万円（前回20.3万円）、JAは19.9万円（前回22.8万円）、県民共済・生協等は8.4万円（前回7.6万円）となっている。（図表I-58）

〈図表 I -58〉 世帯年間払込保険料

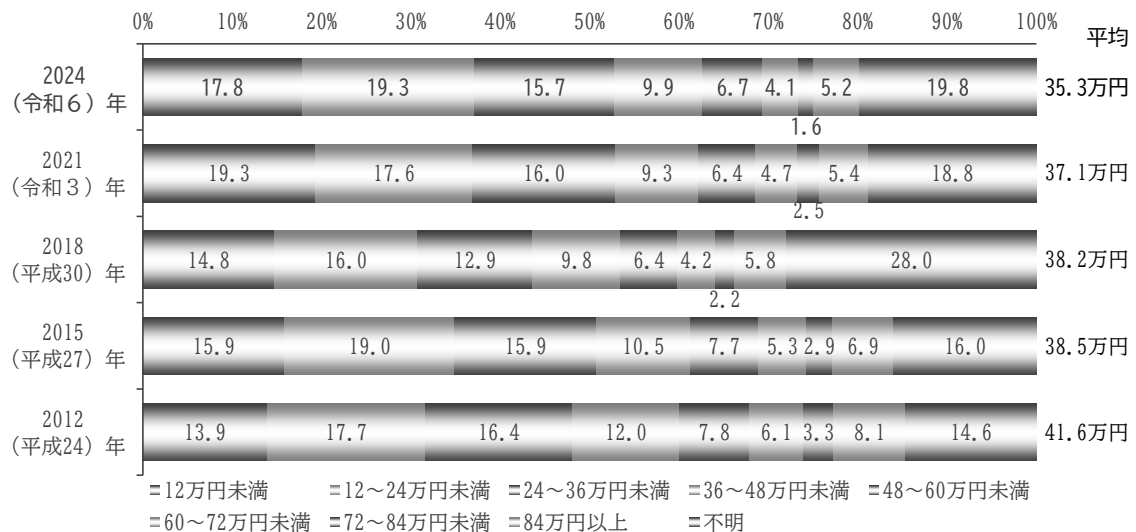
| | (万円) | | | | | |
|-----------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | 全生保 | 民保 | かんぽ生命 | 簡保 | J A | 県民共済・ 生協等 |
| 2024 (令和6)年 | 35.3 (▲ 1.8) | 35.4 (▲ 0.5) | 26.6 (▲ 6.9) | 19.6 (▲ 0.7) | 19.9 (▲ 2.9) | 8.4 (+ 0.8) |
| 2021 (令和3)年 | 37.1 (▲ 1.1) | 35.9 (▲ 0.3) | 33.5 (+ 4.4) | 20.3 (▲ 2.5) | 22.8 (▲ 2.4) | 7.6 (▲ 0.1) |
| 2018 (平成30)年 | 38.2 (▲ 0.3) | 36.2 (▲ 0.8) | 29.1 (+ 2.9) | 22.8 (+ 0.6) | 25.2 (▲ 2.5) | 7.7 (▲ 0.5) |
| 2015 (平成27)年 | 38.5 (▲ 3.1) | 37.0 (+ 0.5) | 26.2 (+ 2.8) | 22.2 (▲ 1.9) | 27.7 (▲ 2.7) | 8.2 (0.0) |
| 2012 (平成24)年 | 41.6 (▲ 3.8) | 36.5 (▲ 0.9) | 23.4 (▲ 1.5) | 24.1 (▲ 4.4) | 30.4 (+ 0.3) | 8.2 (▲ 0.2) |

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、J A、県民共済・生協等を含む
*（ ）は前回調査との差

世帯年間払込保険料（全生保）の分布をみると、「12～24万円未満」が19.3%と最も多く、「12万円未満」（17.8%）、「24～36万円未満」（15.7%）が続いている。

時系列でみると「72～84万円未満」（前回2.5%）が0.9ポイント減少している。（図表I-59）

〈図表 I -59〉 世帯年間払込保険料（全生保）



全生保の世帯の平均年間払込保険料について**世帯主年齢別**にみると、「55～59 歳」で最も高く、40.7 万円となっている。

時系列で見ると、「45～49 歳」、「50～54 歳」、「55～59 歳」、「80～84 歳」で 2012（平成 24）年以降、減少傾向が続いている。（図表 I -60）

〈図表 I -60〉世帯年間払込保険料（全生保）（世帯主年齢別）

(万円)

| | 2012 (平成24) 年 | 2015 (平成27) 年 | 2018 (平成30) 年 | 2021 (令和3) 年 | 2024 (令和6) 年 |
|--------|------------------|------------------|------------------|-----------------|-----------------|
| 全 体 | 41.6 | 38.5 | 38.2 | 37.1 | 35.3 |
| 29歳以下 | 20.2 | 24.2 | 23.3 | 21.5 | 32.2 |
| 30～34歳 | 31.0 | 27.6 | 29.8 | 26.2 | 29.8 |
| 35～39歳 | 31.7 | 32.9 | 38.0 | 38.2 | 31.2 |
| 40～44歳 | 40.3 | 41.0 | 34.5 | 34.8 | 37.4 |
| 45～49歳 | 46.2 | 44.2 | 42.7 | 37.5 | 36.8 |
| 50～54歳 | 51.8 | 49.8 | 48.3 | 43.2 | 38.2 |
| 55～59歳 | 51.3 | 49.2 | 45.3 | 43.6 | 40.7 |
| 60～64歳 | 43.4 | 43.4 | 43.9 | 38.4 | 34.3 |
| 65～69歳 | 39.4 | 33.9 | 33.8 | 43.6 | 35.4 |
| 70～74歳 | 36.9 | 30.7 | 29.9 | 33.7 | 34.5 |
| 75～79歳 | 32.9 | 30.0 | 35.3 | 31.4 | 30.8 |
| 80～84歳 | 43.9 | 30.6 | 29.5 | 28.6 | 28.2 |
| 85～89歳 | 73.9 | 21.1 | 36.5 | 35.8 | 25.3 |
| 90歳以上 | 23.6 | 21.4 | 22.5 | 25.6 | 32.6 |

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、県民共済・生協等を含む
 *85歳以上はサンプルが30未満

民保の世帯の平均年間払込保険料について**世帯主年齢別**にみると、「55～59 歳」で最も高く 39.6 万円となっている。(図表 I -61)

〈図表 I -61〉 世帯年間払込保険料（民保）（世帯主年齢別）

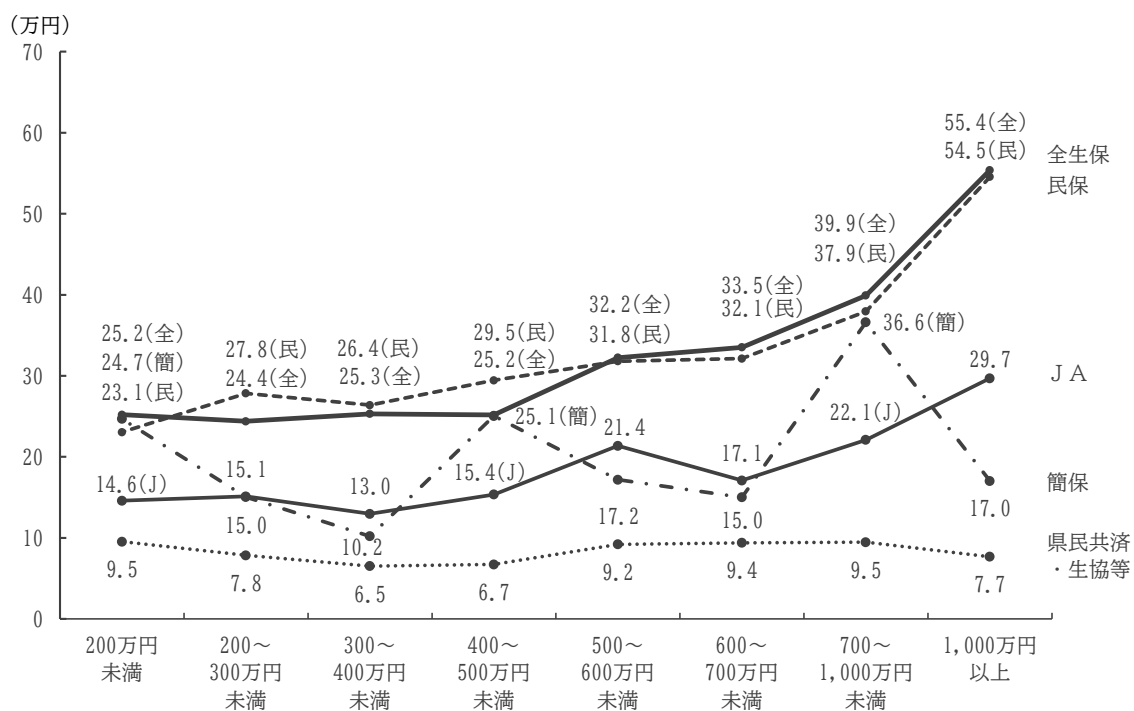
(万円)

| | 2012 (平成24) 年 | 2015 (平成27) 年 | 2018 (平成30) 年 | 2021 (令和3) 年 | 2024 (令和6) 年 |
|--------|------------------|------------------|------------------|-----------------|-----------------|
| 全 体 | 36.5 | 37.0 | 36.2 | 35.9 | 35.4 |
| 29歳以下 | 22.0 | 25.1 | 24.2 | 21.3 | 35.7 |
| 30～34歳 | 30.4 | 26.1 | 27.9 | 24.6 | 31.0 |
| 35～39歳 | 28.3 | 32.0 | 37.3 | 39.1 | 33.6 |
| 40～44歳 | 35.6 | 38.4 | 33.6 | 33.1 | 37.4 |
| 45～49歳 | 40.0 | 40.7 | 39.9 | 34.7 | 36.5 |
| 50～54歳 | 46.2 | 50.0 | 43.8 | 42.2 | 37.9 |
| 55～59歳 | 43.5 | 47.4 | 41.8 | 42.2 | 39.6 |
| 60～64歳 | 38.4 | 38.9 | 44.5 | 37.0 | 36.3 |
| 65～69歳 | 33.6 | 33.8 | 32.1 | 42.3 | 34.3 |
| 70～74歳 | 30.6 | 31.5 | 26.8 | 31.9 | 33.0 |
| 75～79歳 | 31.4 | 27.5 | 32.8 | 31.0 | 29.1 |
| 80～84歳 | 34.0 | 30.7 | 28.3 | 30.2 | 36.5 |
| 85～89歳 | 68.3 | 17.4 | 38.9 | 30.1 | 20.5 |
| 90歳以上 | 21.2 | 21.7 | 23.6 | 18.1 | 24.2 |

*かんぽ生命を含む
*85歳以上はサンプルが30未満

世帯年収別にみると、全生保、民保とも概ね世帯年収が高くなるほど払込保険料が高くなっており、世帯年収「1,000万円以上」では全生保が55.4万円、民保が54.5万円となっている。(図表 I-62)

〈図表 I-62〉世帯年間払込保険料（世帯年収別）



*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、J A、県民共済・生協等を含む

*簡保の300～400万円未満を除く各層、およびJ Aの400万円未満の層、600～700万円未満はサンプルが30未満

(イ) 世帯員の年間払込保険料

(a) 世帯主の年間払込保険料

世帯主の年間払込保険料（全生保）の平均は 21.4 万円となっている。

これを機関別にみると、民保 22.3 万円、簡保 17.8 万円、JA13.6 万円、県民共済・生協等 5.8 万円となっている。（図表 I -63）

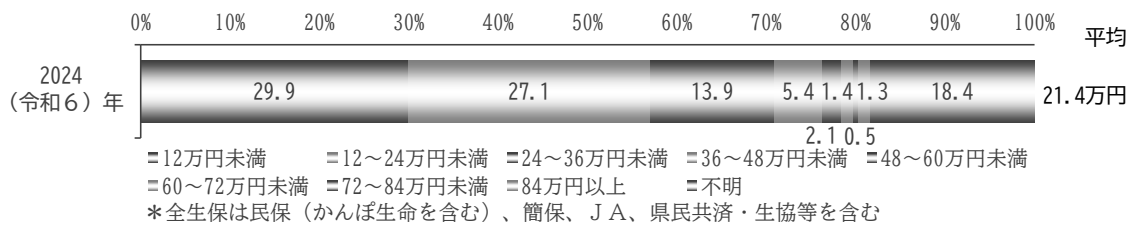
〈図表 I -63〉 世帯主の年間払込保険料

| | (万円) | | | | | |
|----------------|------|------|-------|------|------|----------|
| | 全生保 | 民保 | かんぽ生命 | 簡保 | J A | 県民共済・生協等 |
| 2024 (令和6)年 | 21.4 | 22.3 | 24.2 | 17.8 | 13.6 | 5.8 |

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、J A、県民共済・生協等を含む

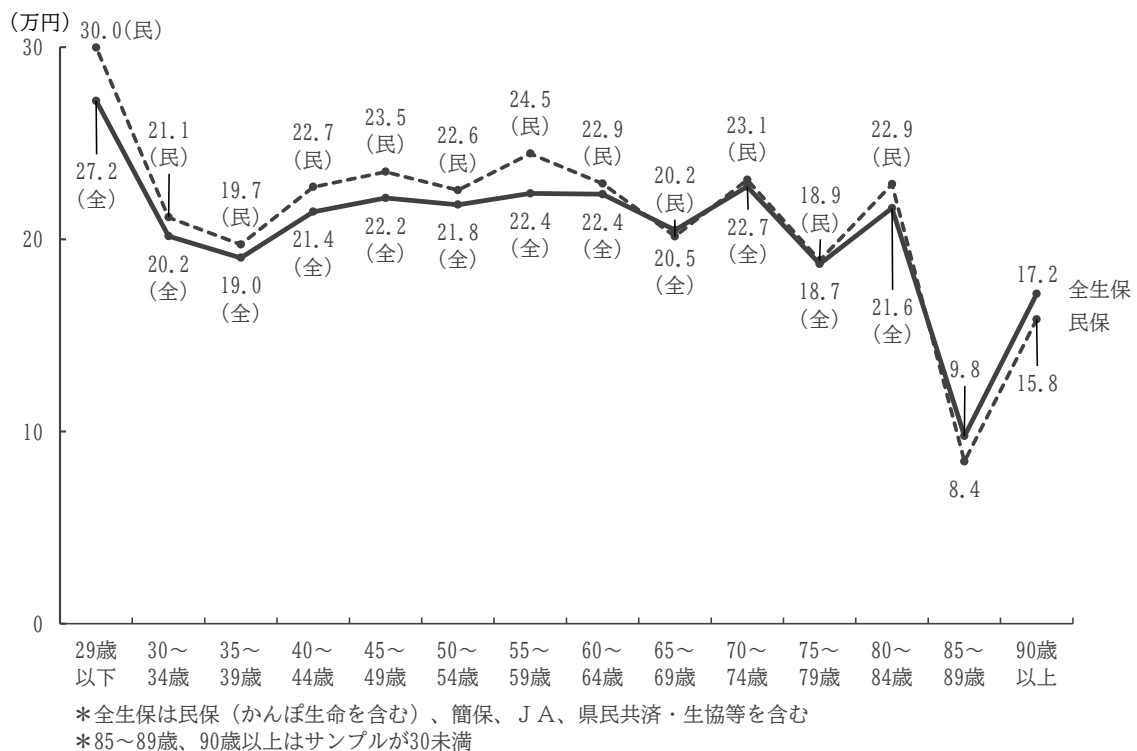
世帯主の年間払込保険料（全生保）の分布をみると、「12 万円未満」が 29.9%と最も多く、「12～24 万円未満」（27.1%）、「24～36 万円未満」（13.9%）が続いている。（図表 I -64）

〈図表 I -64〉 世帯主の年間払込保険料（全生保）



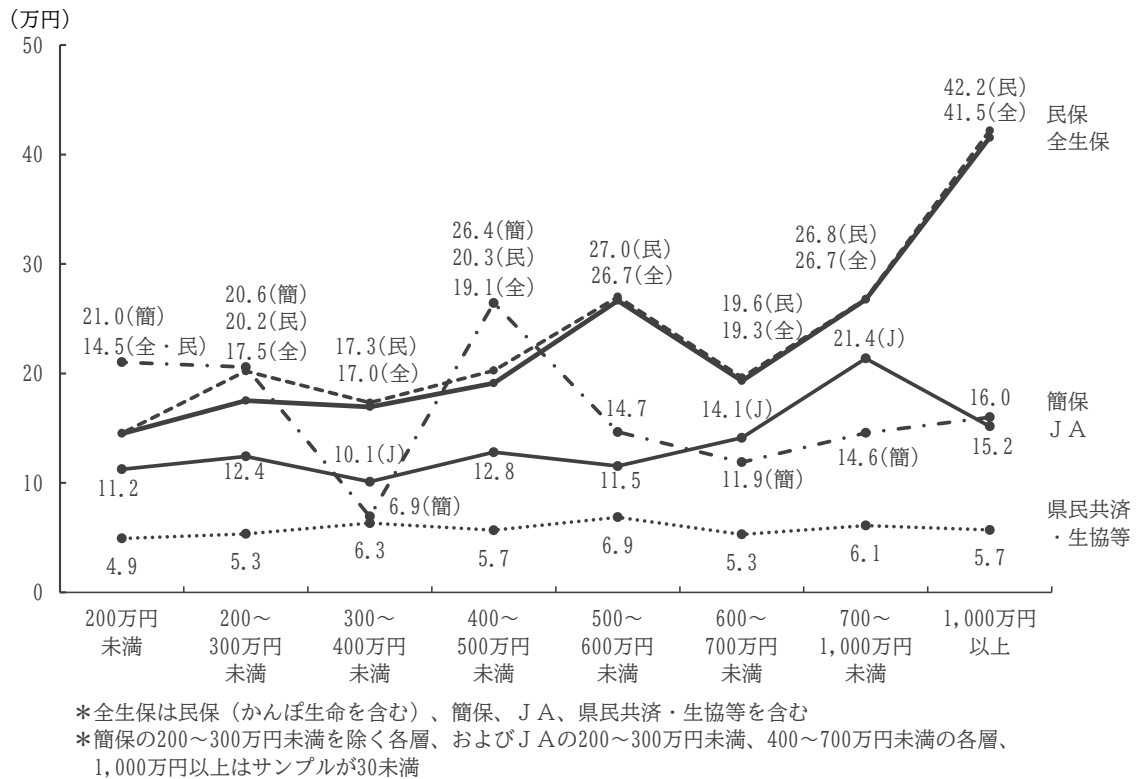
世帯主年齢別にみると、全生保、民保ともに「29 歳以下」が最も高く、全生保は 27.2 万円、民保は 30.0 万円となっている。（図表 I -65）

〈図表 I -65〉 世帯主の年間払込保険料（世帯主年齢別）



世帯主年収別にみると、全生保、民保とも概ね世帯主年収が高くなるほど払込保険料が高くなっており、世帯主年収「1,000万円以上」では全生保が41.5万円、民保が42.2万円となっている。(図表I-66)

〈図表I-66〉世帯主の年間払込保険料(世帯主年収別)



(b) 配偶者の年間払込保険料

配偶者の年間払込保険料(全生保)の平均は14.1万円となっている。

これを機関別にみると、民保14.7万円、簡保13.0万円、JA11.6万円、県民共済・生協等4.7万円となっている。(図表I-67)

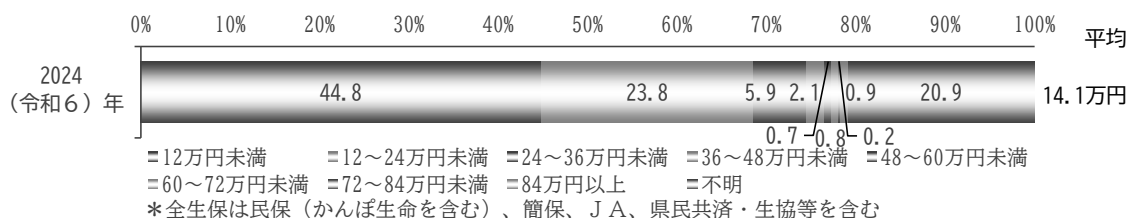
〈図表I-67〉配偶者の年間払込保険料

| | (万円) | | | | | |
|-------------|------|------|-------|------|------|----------|
| | 全生保 | 民保 | かんぽ生命 | 簡保 | J A | 県民共済・生協等 |
| 2024 (令和6)年 | 14.1 | 14.7 | 17.1 | 13.0 | 11.6 | 4.7 |

*全生保は民保(かんぽ生命を含む)、簡保、J A、県民共済・生協等を含む

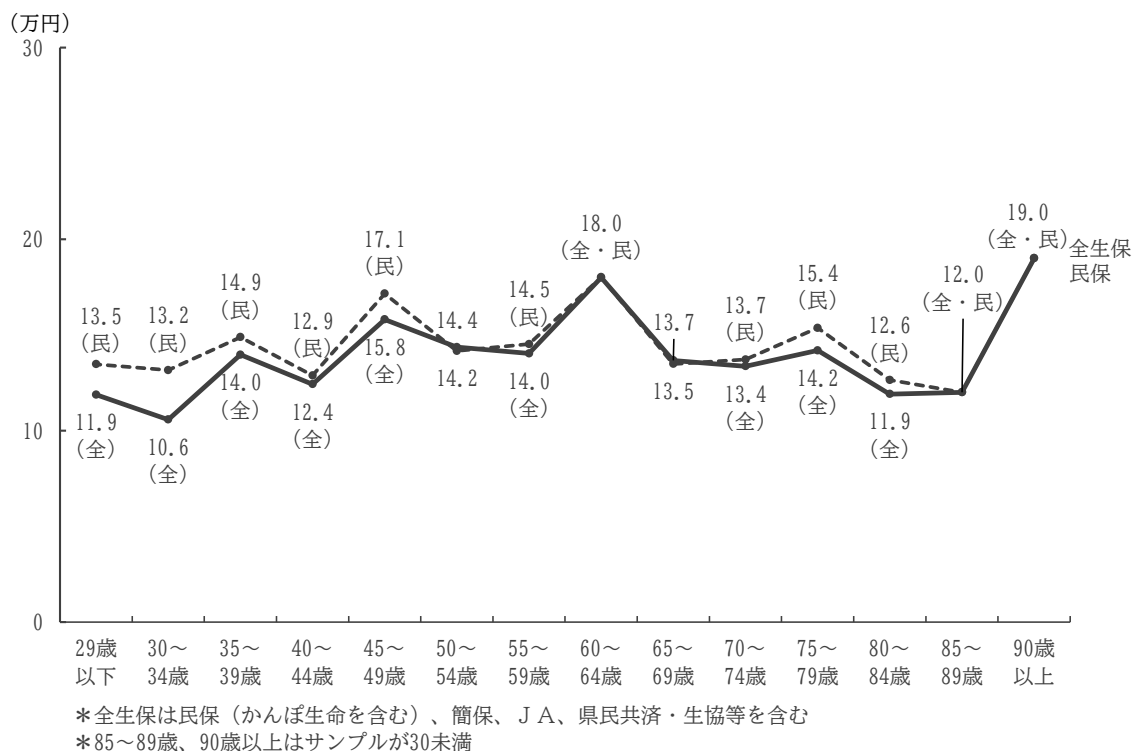
配偶者の年間払込保険料(全生保)の分布をみると、「12万円未満」が44.8%と最も多く、「12~24万円未満」(23.8%)、「24~36万円未満」(5.9%)が続いている。(図表I-68)

〈図表I-68〉配偶者の年間払込保険料(全生保)



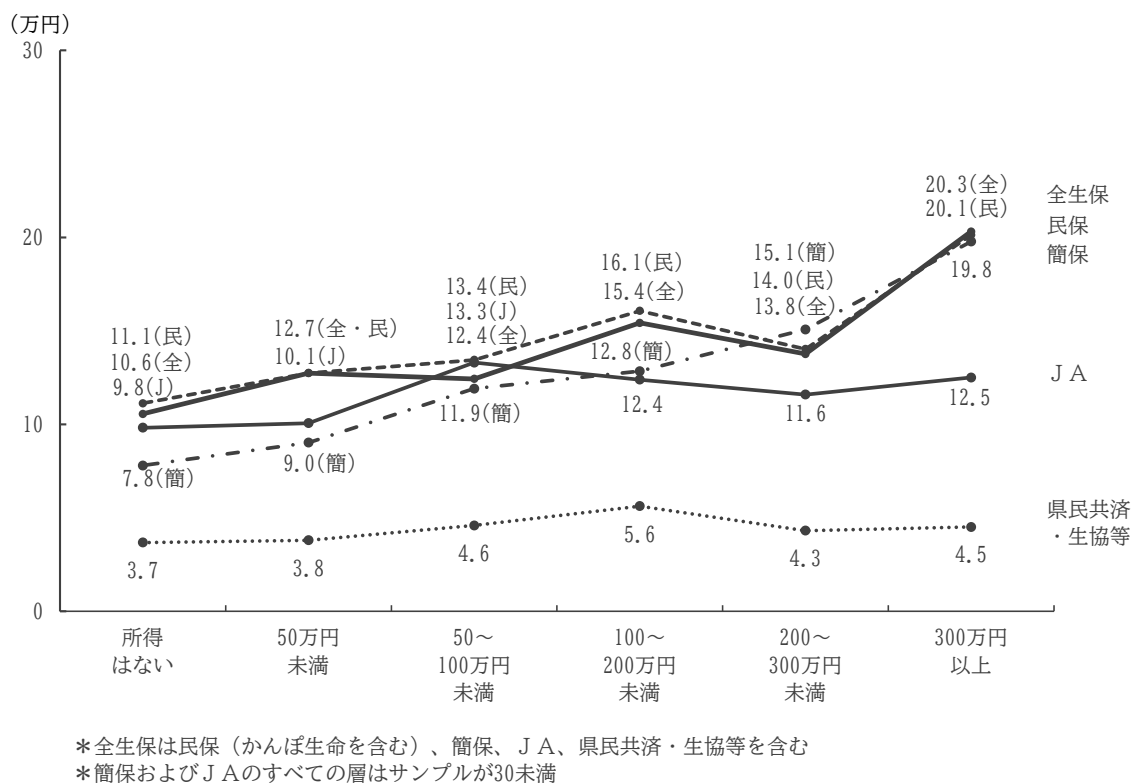
配偶者の年齢別にみると、全生保、民保ともに「60～64歳」(18.0%)が最も高くなっている。(図表 I -69)

〈図表 I -69〉 配偶者の年間払込保険料 (配偶者の年齢別)



配偶者の年収別にみると、全生保、民保とも概ね配偶者の年収が高くなるほど払込保険料が高くなっており、配偶者の年収「300万円以上」では全生保が20.3万円、民保が20.1万円となっている。(図表 I -70)

〈図表 I -70〉 配偶者の年間払込保険料 (配偶者の年収別)



(5) 世帯年間払込保険料対世帯年収比率

世帯年間払込保険料対世帯年収比率とは

生命保険（個人年金保険を含む）に加入している世帯における、世帯年間払込保険料の世帯年収に占める割合のことで、サンプル（世帯）ごとにこの比率を計算したものを合計し、生命保険に加入している世帯数で除することによって算出している。これを式で表すと次のとおりである。

$$\text{世帯年間払込保険料対世帯年収比率} = \frac{\sum (\text{各サンプルの世帯年間払込保険料} / \text{各サンプルの世帯年収})}{\text{生命保険に加入している世帯数}} \times 100$$

生命保険（個人年金保険を含む）加入世帯における年間払込保険料の世帯年収に占める割合をみると、全生保で6.0%（前回6.7%）、民保で6.0%（前回6.4%）となっている。前回と比較すると、「全生保」で0.7ポイント減少している。（図表 I -71）

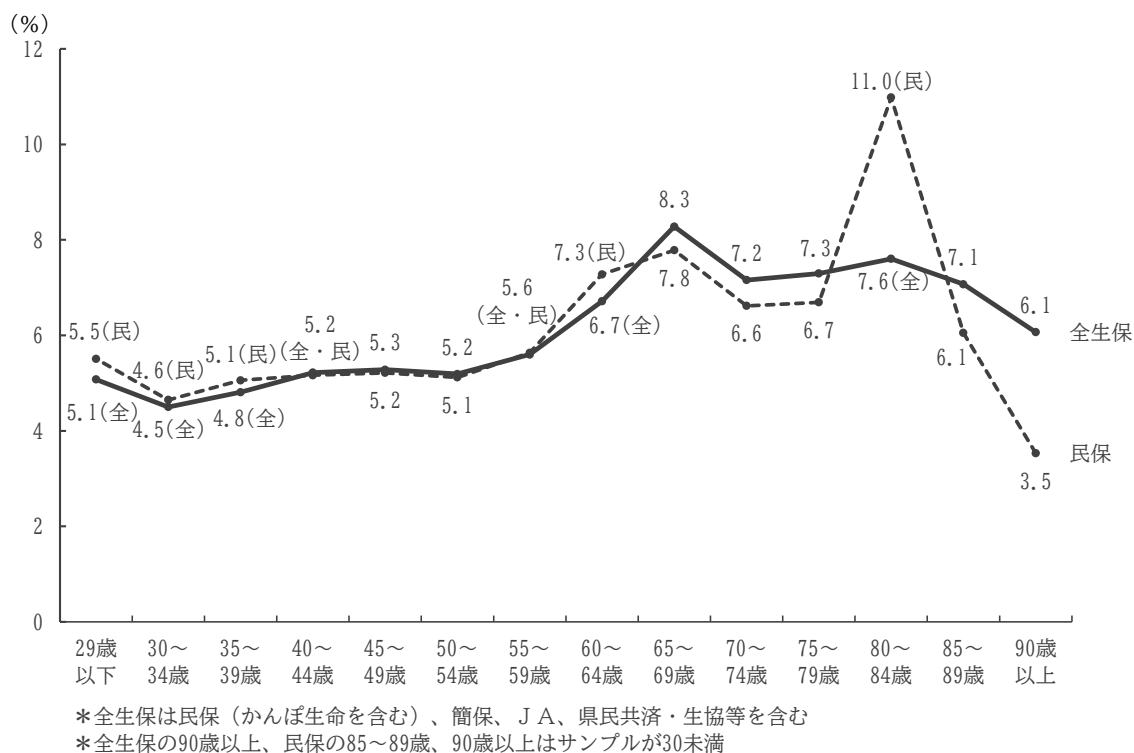
〈図表 I -71〉 世帯年間払込保険料対世帯年収比率

| | (%) | |
|-----------------|-----|-----|
| | 全生保 | 民保 |
| 2024 (令和6)年 | 6.0 | 6.0 |
| 2021 (令和3)年 | 6.7 | 6.4 |
| 2018 (平成30)年 | 7.2 | 6.7 |
| 2015 (平成27)年 | 7.4 | 7.0 |
| 2012 (平成24)年 | 8.0 | 6.9 |

*全生保は民保（かんぽ生命を含む）、簡保、JA、
県民共済・生協等を含む

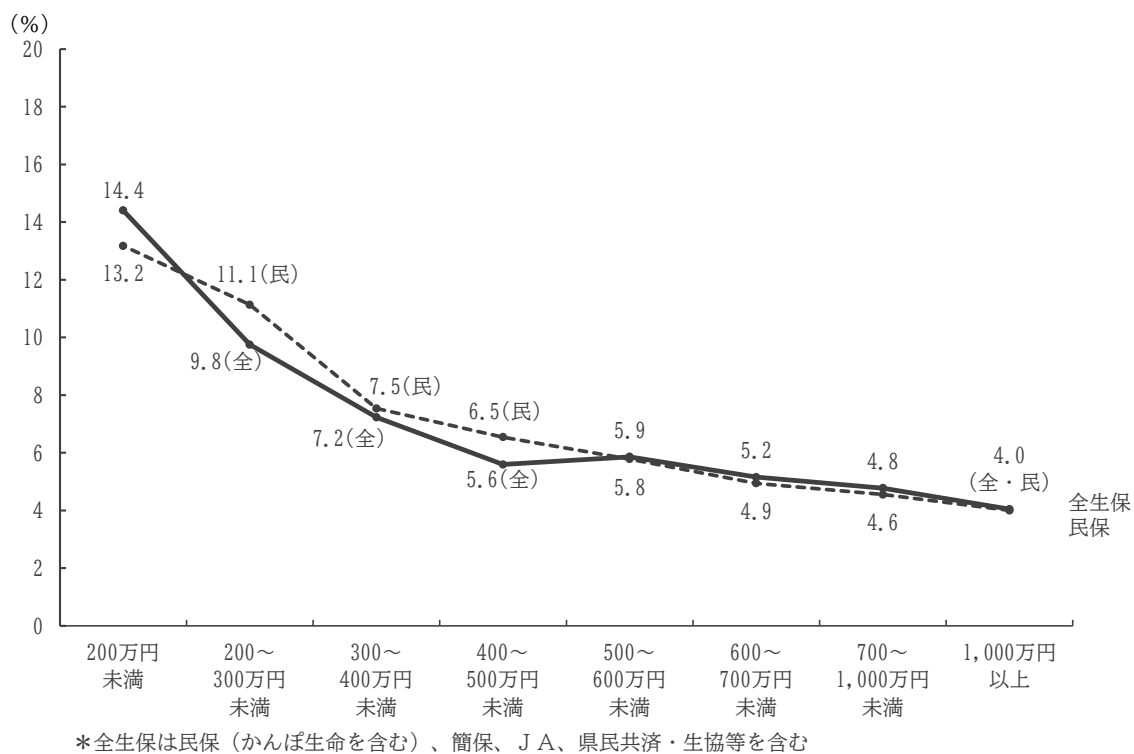
世帯主年齢別にみると、全生保、民保ともに「65～69歳」で最も高く、全生保は8.3%、民保7.8%となっている。(図表 I-72)

〈図表 I-72〉世帯年間払込保険料対世帯年収比率（世帯主年齢別）



世帯年収別にみると、全生保は「200万円未満」の層、民保は「300万円未満」の層で1割を超えている。(図表 I-73)

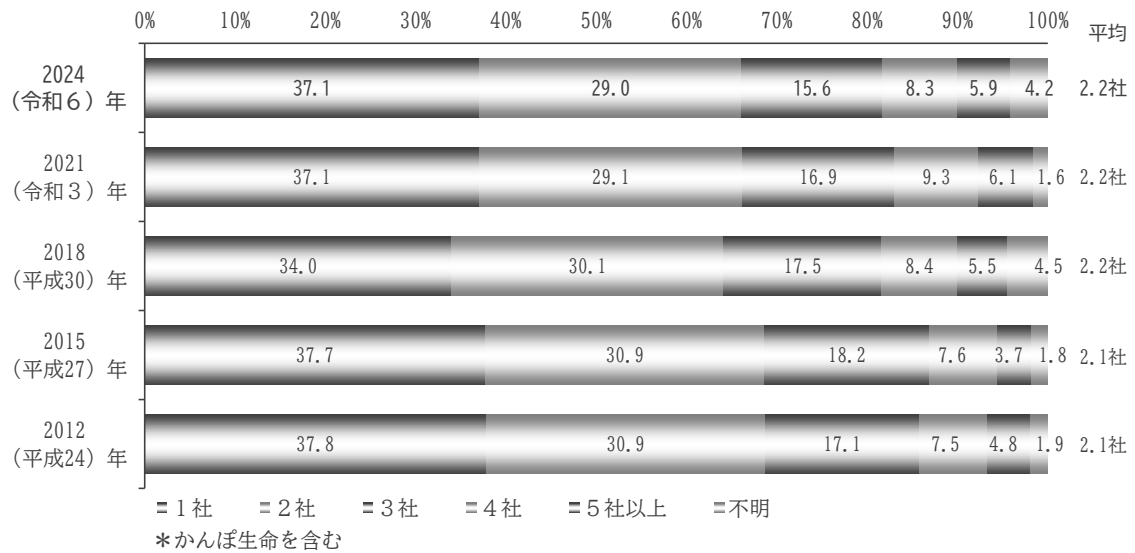
〈図表 I-73〉世帯年間払込保険料対世帯年収比率（世帯年収別）



(6) 民保の加入会社数

民保加入世帯（かんぽ生命を含む）における加入会社数をみると、「1社」37.1%（前回37.8%）、「2社」29.0%（前回29.9%）、「3社」15.6%（前回17.9%）となっている。前回と比較すると、大きな差異はみられなかった。（図表 I-74）

〈図表 I-74〉 民保の加入会社数



民保加入世帯における民保1社あたりの世帯加入件数、世帯普通死亡保険金額、世帯年間払込保険料をみると、世帯加入件数は1.7件（前回1.6件）、世帯普通死亡保険金額は1,112万円（前回1,140万円）、世帯年間払込保険料は18.9万円（前回18.4万円）となっている。

前回と比較すると世帯加入件数は0.1件増加している。（図表 I-75）

〈図表 I-75〉 民保加入世帯における民保1社あたりの世帯加入件数、世帯普通死亡保険金額、世帯年間払込保険料

| | 世帯加入件数 (件) | 世帯普通死亡保険金額 (万円) | 世帯年間払込保険料 (万円) |
|---------------|---------------|--------------------|-------------------|
| 2024 (令和6) 年 | 1.7 (+0.1) | 1,112 (▲28) | 18.9 (+0.5) |
| 2021 (令和3) 年 | 1.6 (0.0) | 1,140 (▲31) | 18.4 (+0.1) |
| 2018 (平成30) 年 | 1.6 (0.0) | 1,171 (▲155) | 18.3 (▲1.7) |
| 2015 (平成27) 年 | 1.6 (0.0) | 1,326 (▲99) | 20.0 (0.0) |
| 2012 (平成24) 年 | 1.6 (▲0.1) | 1,425 (▲246) | 20.0 (▲2.0) |

（世帯加入件数、世帯年間払込保険料には個人年金保険を含む）
 *かんぽ生命を含む
 *（ ）は前回調査との差